司会 皆さま、大変お待たせいたしました。ただいまより、2017 大宮アルディージャサポーターズミーティングを始めさせていただきます。本日の出席者をご紹介させていただきます。代表取締役社長、森正志。

森 皆さま、こんばんは。本日はよろしくお願いいたします。

司会 取締役事業本部長、久保田剛。

久保田 こんばんは。よろしくお願いいたします。

司会 取締役管理本部長、小笠原清孝。

小笠原 こんばんは。よろしくお願いいたします。

司会 強化本部長、松本大樹。

松本 こんばんは。よろしくお願いいたします。

司会 育成普及本部長 岡本武行。

岡本 こんばんは。よろしくお願いいたします。

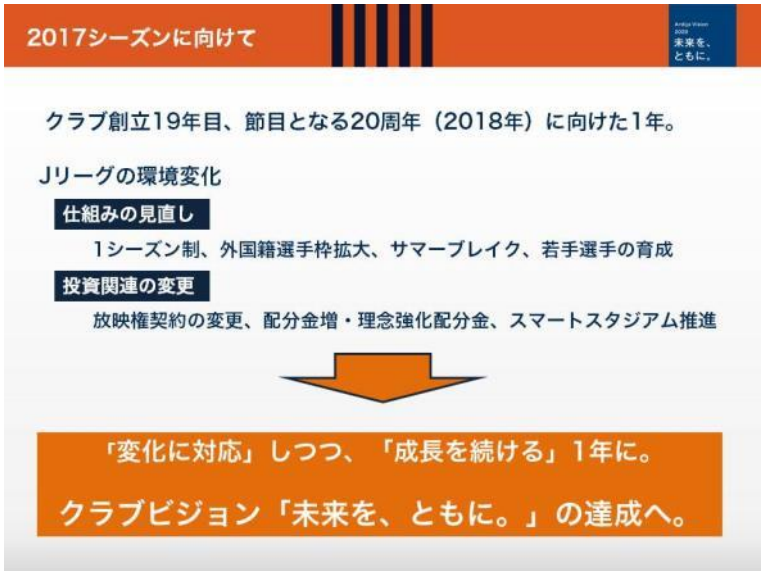
司会 本日の司会進行役を務めさせていただきます、大宮アルディージャ事業本部の髙須でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。ここから登壇者は、着席させていただき、進行させていただきますので、ご了承ください。初めに代表取締役社長、森よりご挨拶させていただきます。

森 あらためまして、皆さまこんばんは。大宮アルディージャ代表の森でございます。本日は本当に寒い中、このように多くの皆さまにご出席いただき、本当にありがとうございます。皆さまもご存知のとおり、我々、大宮アルディージャは昨年、過去最高の成績を残すことができました。これも、これまで長年に渡って支えて熱い応援をしていただいた皆さまのおかげだと思っております。もちろん、監督、選手も頑張っております。本日は、この昨年に残した成果を、どうやって伸ばして行くかを含め、時間の許す限り、皆さま方とゆっくりとお話をしていきたいと思っています。時間も限られておりますが、有意義な時間を過ごしていきたいと思っています。どうぞ皆さま、よろしくお願いいたします。

司会 それでは本日の流れを簡単にご説明させていただきます。まず代表取締役社長の森と強化本部長の松本、育成普及本部長の岡本より、2017 シーズンのクラブの方針と強化方針、育成方針についてご説明させていただき、質疑応答をさせていただきます。次に取締役事業本部長の久保田、取締役管理本部長の小笠原より、事業全般、コンプライアンスについてご説明させていただいた後、また質疑応答をさせていただきます。最後にあらためて、今回のミーティングを通じた全体のお話について、質疑応答の時間を取らせていただきます。今回のサポーターズミーティングが、皆さまと有意義な意見交換の場となるように、事前にいただいた質問数に応じて質疑応答の時間配分を設定させていただいております。何卒よろしくお願いいたします。それでは、これよりミーティングへ移りたいと思います。

まず初めに社長の森より、2017 シーズンのクラブ方針について、お話をさせていただきます。それでは、お願いいたします。

森 それでは私から、大宮アルディージャの 2017 シーズンに向けての方針を、ご説明させていただきます。冒頭に申し上げましたように、昨年は過去の順位を上回る成績を残すことができましたが、やはりこれを越えていかなければいけません。それに向けての考え方でございます。大宮アルディージャは、今年でクラブ創設 19 年目に入ります。節目となる 20 年目を迎えるにあたり、しっかりとした 1 年を刻んでいかないといけません。そんな中、すでに発表された部分もありますが、Ｊリーグが少し様変わりします。1 つは、昨年まで 2 ステージでやってきたところを 1 ステージ制で行います。年間を通してのリーグ戦に戻りますので、非常にわかりやすい流れになるのではないかと思っております。また、日本のサッカーをどんどん成長させていかなければいけません。外国籍枠の拡大、1 シーズン制になることでサマーブレイクの期間を設け、その間に海外のチームと試合をすること、そして日本人の若手選手を育てなければいけないので、カップ戦でも若手を積極的に登用していくこと。そのような見直しが計られます。



投資関連でございますが、Ｊリーグもお金をかけながら、投資していかないといけません。今年度からは放映権の関係で、だいぶＪリーグからのお金が我々チームにいただけるようになります。こういった変更があり、配分金が増額されることに加えて、リーグの優勝チーム、準優勝チームについては、さらに強化を進めていくための強化配分金も配られることになりました。また、Ｊリーグが各スタジアムで Wi-Fi の設備の資金のイニシャルコストを持ちながら、しっかりと皆さんに楽しんで帰っていただけるようなスマートスタジアム化もＪリーグの理念に入っています。

我々としては、この様々な変化にしっかりと対応して、アルディージャとして成長を続けていくとともに、未来につなげる 1 年にしていきたいと思っています。そこで『未来を、ともに。』というクラブビジョンの達成を目指していきます。アルディージャビジョン 2020 ～未来を、ともに。～の 3 つの柱、『地域の未来』、『クラブの未来』、『チームの未来』。この 3 つの柱を 2020 年に向けてつないでいく 1 年であると考えております。

もう少し中身のお話をさせていただきますと、『地域の未来』について、今年度はさらに総合型スポーツクラブ化を進めていきます。地域の皆さまと連携しながら、小さいお子様を育てて行くことも含め、専用のフットサルコートを所有し、皆さまとともに進んでいきたい。またスタジアム構想でも、今年度ではありませんが将来的に指定管理者になっていきたいという希望があります。そのために、どのように進んでいけばいいかをこの 1 年で考えていきます。さらに『クラブの未来』。当然ですが、クラブが安定しないといけません。経営基盤がしっかりして、選手やスタッフにも安心してアルディージャにいていただくための取り組みの 1 つです。当然、ＮＡＣＫ５スタジアム大宮に来ていただくお客様も増やさなければいけません。週末になるとチケットが完売する状況も増えてきましたが、カップ戦など平日に行われる試合については、まだまだ伸びしろがあります。また、しまむら様がトップパートナーになっていただきましたが、しまむら様のように地元のパートナー企業様にも、積極的に応援していただけるような取り組みも進めていきます。

そして 3 つ目、『チームの未来』についてです。渋谷監督の下で今季、4 季目を迎えます。これまでやってきたスタイルを今シーズンも続けながら、新たな体制で、新たな戦い方も出るかもしれません。そこは、渋谷監督を信じて、しっかりと我々も付いて行きたいと思います。

最後になりますが、今年度のスローガンでございます。『挑む』は変えていません。我々には、挑まなければいけないステージ、場所がまだまだあると思っております。そういった意味で、今年のキーワードは、『挑む　より強く、未来へ。』です。なんといっても昨シーズン、あと一歩のところで勝ち切れなかったところを今年は思い残すことなく、しっかりと勝ち進んでいく。今シーズンは強いチームを目指して、勝った喜び、負けた悔しさをしっかり噛みしめながら、今後の未来につなげていくということです。

超えて行こう。これまでの歴史を、これまでの自分を。日々の積み重ねが私たちをもっと強くする。大切なのは、未来を信じること。すべての仲間と結束し、挑み続けること。より強く、未来へ。

この言葉を噛みしめながら、監督、選手、スタッフ、我々スタッフ、すべてのメンバーが一丸となって戦っていく所存でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

司会 続きまして、強化本部長・松本より、2017 年の強化方針についてお話させていただきます。

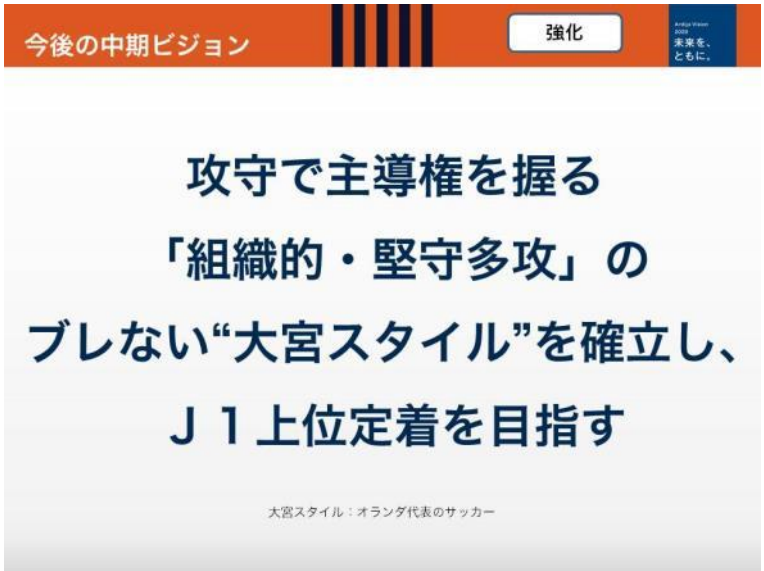
松本 皆さま、あらためましてこんばんは。今年も強化本部長を担当する松本です。ちょっと暗いですね…。年間 5 位だったんですけどね。ちょっと明るくいきましょう(笑)。この後、『なんで誰が移籍しちゃったんだ』とかあると思いますが、まず私の方から編成について話をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

今日 13 時半から新体制発表記者会見を高木のグラウンドでしてきました。その席でも話をしました目標設定について、まず話をさせていただきます。今シーズンは J1 で 9 位以上、勝ち点 50 以上という目標を設定しました。これは私と社長が勝手に決めたのではなく、渋谷監督とも、コミュニケーションをとり、ディスカッションをしながら決めました。もちろん、皆さんの中には『昨年 5 位だったのに』、『勝点 56 に行ったのに』という思いがあるかもしれませんが、しっかりと土台をつくりたいと思っています。正直なところ 2004 年に昇格して、降格するまでの 14 年、勝点 45 以上を取ったことがない、12 位以上になったことのなかったクラブが、急に強豪クラブになることはできません。結果として、昨年はこういう成績が出ましたが、しっかり土台をつくる必要があります。社長にも言っていただきましたが、『次のステージに行くための準備』が必要だと考えております。

そして、このスライドを見ていただきたいのですが、これは今日作ったわけではなく、2 年前に作ったものです。2 年前の目標は達成、昨年の目標も達成です。もちろん、もっと上を目指したいのですが、今後を見守っていただけたらと思います。それでも今季の目標は、2 年前のプランからちょっと上乗せして 9 位以上、勝点 50 以上にして、2020 年に向けてブレずにやっていきます。そこは順調に来ているので、ご理解していただけたらと思います。なぜ、この数字を出したかというと、昨シーズンの 11 月の頭に選手たちには契約更新の通知を出して、交渉が始まったのですが、そのときに選手たちから「今年、勝点 48 を目標に

していて、『達成してから急降下するかな?』『メンタル的にも落ちるかな?』と思っていたけど、もっと上を目指そうとなった」という話がありました。そこで今年も目標を勝点 50 にして、この数字を達成したら、あらためて「もう少し、違う景色を見ようよ」と言おうかなと思い、この目標を出させてもらいました。ブレずにやっているんだと理解してください。

今後の中期ビジョンについては、社長からも言っていただきましたが、渋谷監督の 4 シーズン目になります。2014 年に降格したときからやってもらっていますが、戦い方もブレずに、大宮スタイルでやってきました。今シーズンもブレずにやっていこうと掲げています。組織的、堅守多攻、しっかり守って、いろいろなバリエーションで得点を取りたい。



これはブレずにやっていこうと考えております。数字的には、15 勝 5 分け 14 敗で勝ち点 50 になります。個人的に 14 敗は、ちょっと負け過ぎかなと思いますが、これくらいを目標

に設定しています。

昨シーズンを振り返ると、攻撃では 41 得点、1 試合当たり 1.2 点でリーグ全体では 9 位でした。守備については 37 失点で 1 試合について 1.1 失点。こちらはリーグ 3 位です。この数字を見ると『攻撃のところに良い選手を取れば上位に行けるね』と思うかもしれません。しかし、バランスが大切です。攻撃に重きを置くと、今度は失点が増えてきます。そうしたこともしっかり分析して、考えながらやっています。もちろん得点の数が増えれば、もっと上位に行けたかもしれませんし、ACL にも出場できたかもしれません。それはしっかりと考えながらやっています。数字上、リーグの中ではこういう順位でした。

次に今シーズンに向けてですが、ブレない戦術、進化に取り組みます。私と渋谷監督で選手たちに「こういうサッカーをやっているよ」と口説いて、「ぜひ、そこでやりたい」と言ってくれた選手たちが、大宮に移籍して来てくれました。このブレない戦術、スタイル

というのは、すごく大事になってきています。以前の選手たちは「お金をいっぱいもらえるから行きます」という感じでしたが、そういう世界ではなくなってきています。今の選手たちは、「こういうサッカーをやっている。こういうハード面、環境がある。こういうスタッフがそろっている。だからここでやりたい」という選手が、多くなってきていると僕は感じています。そこはしっかりと渋谷監督とも話してやっています。若手選手も来てくれましたが、移籍では、長谷川アーリアジャスール選手、大前元紀選手、茨田陽生選手、瀬川祐輔選手と各クラブで実績、経験のある選手たちを獲得することができました。これについては、「誰々が移籍したから、そうなったんでしょう?」という話が出てくるでしょうが、それについては後ほど、話をしましょう。

ただ、昨年も「移籍で獲得した選手ばかりで編成したくはない」と言っていたのですが、どうしても試合に出ている選手を見ると、うちも移籍で加入した選手が多くなっています。しかし、これは1年、1年の積み重ねなので一朝一夕で成果は出てきません。今シーズンは小島幹敏選手、川田拳登選手というアカデミーから昇格してくれた選手が、それぞれ小島選手は水戸へ、川田選手は群馬へ、育成型期限付き移籍をしました。カテゴリーは違いますが、そこで結果を出して、また戻ってきてほしいと考えています。こういう仕組みがあることを考え、有効活用しながらやっているつもりです。

また、新卒・ユースからの昇格選手については、昨年も特別指定選手で登録をしていた河面旺成選手を明治大から獲得しました。左利きの左サイドバックで、左のセンターバックもできる選手で、大卒の即戦力として獲得できています。またユースからは山田陸選手が昇格しました。ここ数年、ユースから数名の選手がトップチームに上がっていますが、まずその土台をしっかりつくりあげて、将来的には彼らに大宮を背負っていってほしいと考えています。ただ、これは1年、2年で簡単にできることではありません。積み重ねが大切なので、しっかりやっていきたいと考えています。

総括しますと、堅守多攻スタイルを継続して、ブレずにやっていく。将来的には選手の若返りをして、平均年齢を落としながらやっていく。ただ、そんなに簡単なことではないということは、ご理解していただけたらと思っています。

ポジション的には 4-4-2 で、ゴールキーパー、ディフェンスライン、中盤の選手、FW になっています。構成としては、今年もチームに残ってくれた選手、外国籍選手です、そして、今年、大宮を選んで来てくれた選手に分けることができます。

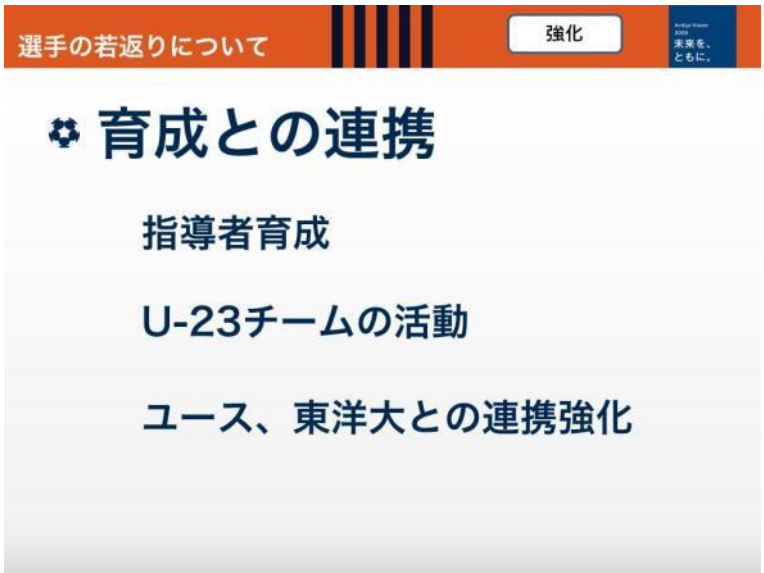
非常にバランスの取れた選手獲得ができたなと考えています。若干、センターハーフが多いというのはありますが、ケガがあったり、なかなか固定できなかったこともあったので、ここはしっかり切磋琢磨でやってほしいと考えています。あと言えるのは、ユーティリティ、つまりいろいろなポジションができる選手がいるのは、今年も強みになってくるかなと思います。新たに加入した大前選手にも、長谷川選手にも、茨田選手にも、「ポジションを空けて待っているよ」とは言っていません。これはプロの世界で、既存の選手、今も頑張ってくれている選手がいますので、「ポジション争いは勝負だ」と言った中で、彼らは来てくれました。

瀬川選手については、群馬から 2 年連続で背番号 26 番の選手が来てくれました。今年は、誰が付けるんでしょうね(笑)? 別に、それを狙っているわけではないのですが、たまたま、そうなりました。瀬川選手は、山越選手と明治大学の同期で、河面選手は 1 つ下です。明治といえば、トータルアドバイザーの佐々木則夫さんが明治大 OB ですが、つながりは特にないんですけど、それもたまたまです(笑)。

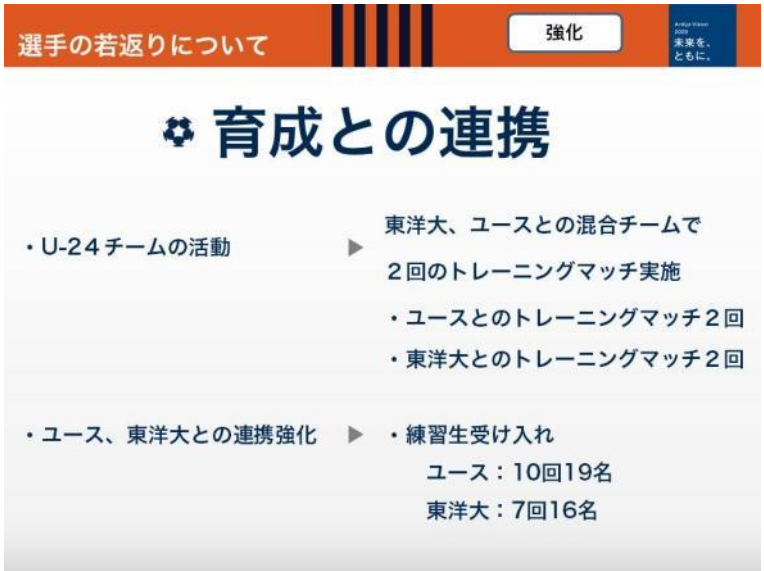
また、左サイドのポジションの選手(泉澤仁)が、私がかつていたクラブに行ってしまいました。清水慎太郎選手、黒川淳史選手がこのポジションで考えられますが、江坂選手はザスパで左サイドをやっていましたし、アーリア選手も FC 東京時代に左をやっています。大前選手もエスパルスで、ここをやっています。マテウス選手も右だけではなく左もできます。選手は大変かもしれませんが、いろいろなバリエーションが組めます。茨田選手は昨年、レイソルで右サイドバックをしていましたが、彼は若い頃からボランチでずっとやっていて、そこでプレーしたいという希望を持っていました。彼には「ボランチのポジションを争う選手として、ぜひ来てほしい」と伝え、獲得することができました。

今シーズンに向けては、渋谷監督としっかり話をしながら、バランスのとれた補強ができたのかなと考えております。ただ、横山選手がレンタル移籍で行ってしまったのでセンターバックについて「どうなの?」という声があるかなと思います。でも、あのタイミングで誰かを獲得すると、自然と山越選手、高山選手が試合に出られなくなってきます。そうなると、今までの大宮と何も変わりません。彼ら 2 人は昨年、ルヴァンカップ、天皇杯に出ていましたし、鹿島戦では山越選手が 90 分間出場して勝っています。しっかり育成もしていくことを考えているので、新たな補強がなくとも心配なくスタートは切れるかなと思います。心配なのは、江坂選手がキャンプでケガをすることですね。去年、彼はキャンプでケガして、最初の 2 カ月いなかったので。そこだけは気にしています(笑)。このように、しっかり補強もできました。10 人、15 人と選手を変えることはしたくないと思っていましたし、渋谷監督も 4 期目になりますし、少し安定の時期に入って来たのかなと感じています。

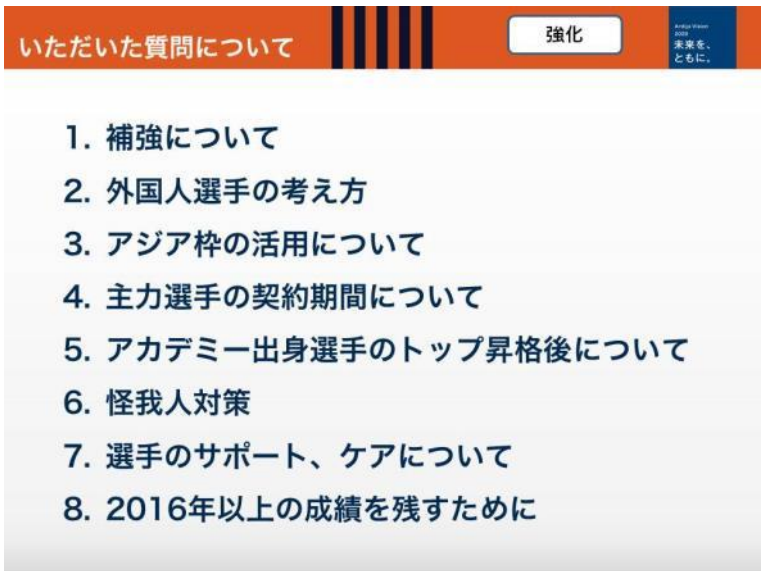
今年のチームには、山越選手、河面選手、清水選手という生え抜きの選手が 3 名います。そして、アカデミー出身の選手は 8 名います。ただ、試合に出ているのは移籍加入した選手が多いので、そこはしっかり考えていきたいです。県内選手も 11 名いますが、なかなか試合に絡めていません。それでも、昨年レッズさんとアウェーでさいたまダービーを戦った際には、試合終了時点のピッチに 4 名の埼玉出身の選手、新卒で加入した 2 選手を加えれば 6 名の生え抜き選手が立っていました。



話は多少重複しますが、しっかりアカデミーと連携を深めながら、近い将来、育成から出てきた選手、生え抜きの選手でチームづくりをしていきたいという思いはあります。これは多分、どこのクラブにもある考えだと思うのですが、しっかりと継続して取り組んでいきたいです。2014 年途中から私はこの立場でやらせてもらっていますが、下部組織と連携を取りながらやっているつもりです。昨シーズンも、ユースとトップチームの U-24 の混合チームをつくり、業務提携をしている東洋大とトレーニングマッチを 2 回行いました。また、練習生を受け入れて、ユースから 19 名の選手がトップチームの練習に参加しています。東洋大の選手も 16 名が年間を通して来てくれました。こういうこともしっかりやっていますので、期待していただけたらと思っております。



次に、今回ここに来ていただいた方から、事前にいろいろな質問をいただきました。その質問を読ませていただいたうえで、分類させていただきましたので、質疑応答の前に、先にお話しさせていただきたいと思います。



補強については、こういう世界ですので、どうしても年末になると移籍する選手が出てきます。これは仲介人、昔でいうとエージェントという方がいまして、要は選手側に付いている方です。そうした方が、言葉は悪いですが、いろいろと操作します。簡単に言うと「うちの商品、ここよりも、ここにいた方がもっと活躍できるのではないか」とか、「もっと良いところでやらせたい」とか。もちろん本人が「そこでやりたい」と言う場合もありますし、いろいろなことがあるのですが、それを踏まえながらやっていました。うちとしても、移籍した 2 人にもチームに残ってもらい、そこにプラスアルファをしていきたいという考えを持っていました。しかし世の中、そう簡単ではなかったので、しっかり補強を

することを考えました。もちろん既存の選手も頑張ってくれています。渋谷監督のやり方、選手の組み合わせなども踏まえて、どのポジションが足りないかを考えて新加入選手を獲得したつもりです。

外国籍選手についての考え方は、クラブによって異なるものでしょう。外国籍選手がいるところもあれば、いないところもあります。私の考えでは、そこまで外国籍選手に頼るチームづくりはしたくありません。たとえば、絶対的な外国籍選手がいたら、日本人の選手は自分が試合に出られなくなるので、来てくれません。今までの大宮のイメージだと、FW に絶対的な外国籍選手が 2 人いて、困ったときは助けてよというイメージがあったかもしれませんが、それも少しずつ変えていきたいと思っています。名前を出しますと、大前選手レベルが大宮に来てくれるというのは、これまではなかったことだと思います。そういう取り組みもでき始めています。ですから、それほど重みを置いているわけではないことを理解していただきたいです。マテウス選手も、私がブラジルに行って、日本に来てもらいましたが、最初は「なんで彼と契約するんだ」とかいろいろ言われました。でも、今は逆に「完全移籍で取ってくれよ」と言われますからね。みんな言いたい放題ですね(笑)。そういうパターンもあるので、気持ちはわかりますが、理解してほしいと思います。

また、今年から外国籍選手の出場できる枠が増えましたが、基本的に出られる選手は 4 名です。外国籍+アジア枠で 4 名。外国籍選手を増やすことで、一人必ず試合に出られない日本人選手が出てきます。モチベーションに影響しますし、全体のマネジメントが非常に難しくなります。ですから、(外国籍選手をこれ以上、増やすことは)私がいる限りは考えません。ただ、昨シーズンもアジア枠について、ネットや新聞に出ていましたが、アジア枠の選手のことは調べています。オファーをするか、しないかはありますが、日本人選手がいなければ、アジア枠に頼るというのは、おそらく他のクラブもそうなのではないでしょうか。大宮ではリストアップはしましたが、特に獲得は考えていませんでした。

次に、主力選手の契約について、単年なのか複数年なのか、どうなっているのかという問い合わせをいただきました。これは個人情報もありますので、なんとも言えません。良い選手は可能であれば長期契約を結ぶ。色々な面を鑑みてある選手とは単年契約を結ぶ、といったことは考えていますが、そこは仲介人を含めて駆け引きがあります。良い選手は、できれば長い期間保有したいというのはありますが、なかなかそうはいきません。選手の気持ちもありますし、仲介人もいますし、クラブとしてどうするか。どういうビジョンでやっているのか。それが合わなければ移籍しますとなります。良い選手については、僕も複数年でお願いしているつもりなのですが、なかなか難しいところもあります。

アカデミー出身選手のトップチーム昇格後についても質問をいただきました。いま、ゲームに関わっているのが、金澤選手、渡部選手、大山選手、それから高山選手です。少しずつ出てきてはいますが、まだまだという部分は正直あります。しかし、育成選手でチームをつくっていくのは、すぐにはできませんし、そんなに簡単なことではありません。今シーズンも山田陸選手がトップチームに昇格しましたが、1 年 1 年の積み重ねなので、もう少し期待して待っていてほしいというところです。トップチームのスタッフも増やしましたし、練習の量、質も上がってきていますので、これは期待していただけたらと思っています。

ケガ人対策については、2015 シーズンから PT(理学療法士)として JISS から堀田さんに

来ていただきました。他のクラブと比べると、ケガ人は少なくなっています。どうしても沼田選手、和田選手、加藤(順大)選手といった主力にケガ人が出たことで、ケガ人が多いなと思われるかもしれませんが、他クラブと比べても、うちは非常に少ない数字です。メディカルグループもしっかりしているので、選手たちからの受けもいいですし、大宮は決してケガが多いわけではないので、ご理解していただきたいなと思います。

選手のサポート・ケアについては、年末の契約交渉のときだけ良い顔をして「残ってほしい」と言っても、これは人間なので「そんなときだけ、そう言われても無理ですよ」となってしまいます。年間を通して、たとえば先ほども話に出た小島選手、川田選手がレンタル移籍をしましたが、彼らの試合も見に行きますし、連絡も取り合います。瀬川選手の獲得が決まったとき、僕が群馬に行っていたので既定路線だった、みたいな話が出ていましたが、群馬に行っていたのは、高瀬選手と清水慶記選手を見に行っていたんです。その後、たまたま瀬川選手が来てくれたと。このようにクラブとして、選手のサポート・ケアはしっかりやっています。ここ数年、大宮でプレーしている選手だけではなく、大宮を離れた選手も「大宮はいいよ」と言ってくれています。こうしたことは続けていきますし、これが大宮が本当にクラブとして強くなるときの土台になるのかなと思っています。チームにいてくれたときだけ「いいよ」と言い、出て行ったら「知らないよ」とならないようにしたいです。

最後に 2016 年以上の成績を残すために、新しく来てくれた選手を含めて、サッカースタイルはブレずに、みんなで、切磋琢磨でやっていこうと思います。渋谷監督はああいう感じの人なので、選手たちにも「みんなで力を合わせてやっていこう」と話をしています。今年は勝点 50、一桁の 9 位を目標に設定しましたが、「やるからには優勝を目指してやろう」と言っています。ただ、メディアを含めて、みなさんも数字で示してほしいというのがあると思いますので、勝点 50、一桁の順位と目標を出しています。ただ、やるからには優勝を目指してやります。昨年、チームは天皇杯の準決勝で、あと一歩で川崎に敗れてシーズンオフに入りました。選手たちは完敗であればあきらめもつくのでしょうが、あそこまでやって勝てなかった悔しさが残っています。皆が、ベスト 4 に進出して満足しているのではなく、決勝に進めなくて悔しいという姿でした。それを見て『大宮も、ここまで来たんだな』と感じましたし、選手たちが『あそこでもう一度やりたい』と思える経験ができたのは大きいと思っています。非常にうまくいっていると感じますし、隣のチームに負けないように、今シーズンは 1 つでも勝ちたいと思っているので、また熱い声援をお願いできればと思っております。以上です。ありがとうございました。

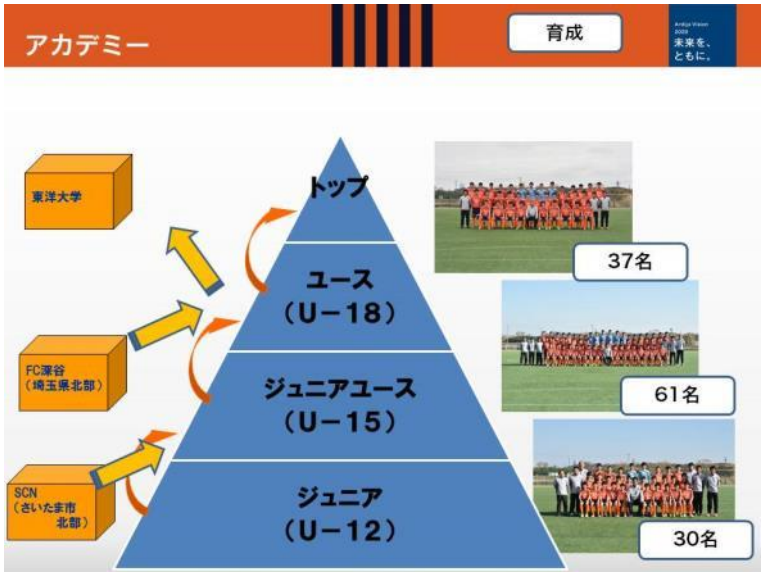
司会 続きまして、育成普及本部長の岡本より、2017 シーズンの育成方針について、お話しさせていただきます。

岡本 あらためまして、皆さま、こんばんは。育成普及本部長の岡本です。まず初めに、皆さまには、トップチームだけではなく、育成の試合にも多くの方に応援に来ていただき、誠に感謝しています。この場を借りて御礼を申し上げさせていただきます。ありがとうございます。私からはアカデミーについて、話をさせていただきます。

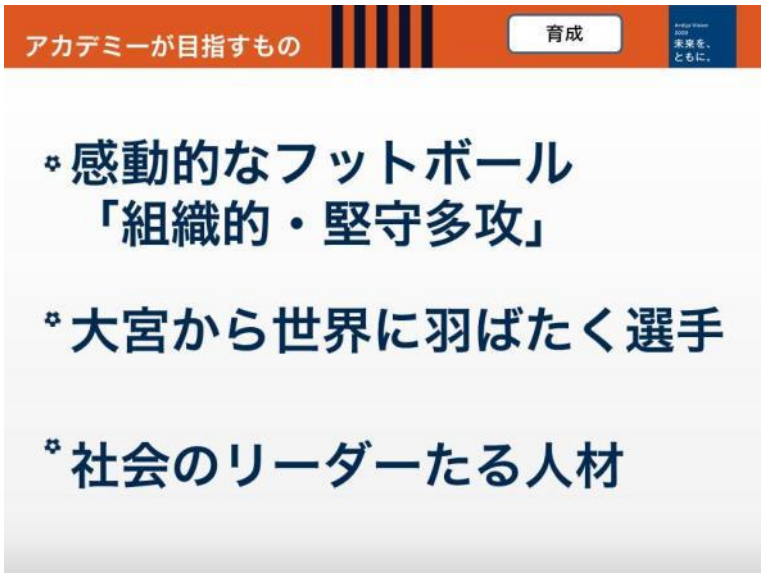
まず組織ではアカデミーとして、ジュニア、Jr.ユース、ユースの 3 つのチームを持ち、アカデミー以外にも、提携、コーチを派遣ということで、SCN、FC 深谷、東洋大学とコミュニケーションを取っています。ジュニア、Jr.ユース、ユースへ上げて、最終的にはトッ

プまで上げていければと思っています。その中でジュニアから Jr.ユースに上げられなかった選手には、FC 深谷に一回行って、また戻ってくる。そういう形で、アルディージャにずっと関わっていただける環境を多くつくっていければと考えています。

ジュニアには、4 年、5 年、6 年生で計 30 名の選手がいます。Jr.ユースには各学年 20 名で、61 名の選手がいます。ユースチームは 37 名。各学年 20 名から 1 学年 12 人くらいにしぼって活動を行っています。各カテゴリーとも、試合環境を大事にしています。やはり人数が増えれば増えるほど、試合に出場する機会は失われます。試合を通じて育成していくことを考えながら、人数構成を決めているのが現状です。



続きましてアカデミーが目指すものですが、チームとしては『組織的堅守多攻』で、トップチームと同じです。いろいろな攻撃のバリエーションがあり、いろいろなところから点が取れること。そして、コレクティブでハードワーク。そういうところを意識してチームをつくっていければと思っております。2 番目の選手の育成は、大宮から世界に羽ばたく選手を出したいと思っています。いま、トップチームに何人かの選手がいますが、その選手を越えて、もっと世界へ、日本代表に入るとか、そういう選手を育てていければと思っています。3 つ目として、サッカー選手である前に社会人として社会に出て行ける人材を育成できればと考えています。アカデミーとしては、チーム、個人、パーソナルに働きかけができればと思っております。



育成の基本方針は、1 つ目にオン・ザ・ピッチがあります。パーフェクトスキルの体得です。サッカー選手は、技術がなければ長くプロでやっていくことはできないと思っています。フィジカルだけでは難しい。長い間、選手をやっている選手は、技術的な部分で長けています。もう 1 つは、ウィナーズメンタリティです。サッカーは常に勝つことを目標に置いてやらないといけません。どんな相手でも勝つことを常に意識すること。それはチームだけではなく、個人にも言えることで、レギュラーを取るために個人個人の戦いがあります。そういうところから向上心を持たせ、いかにサッカーを追及させるかをポイントに置いています。

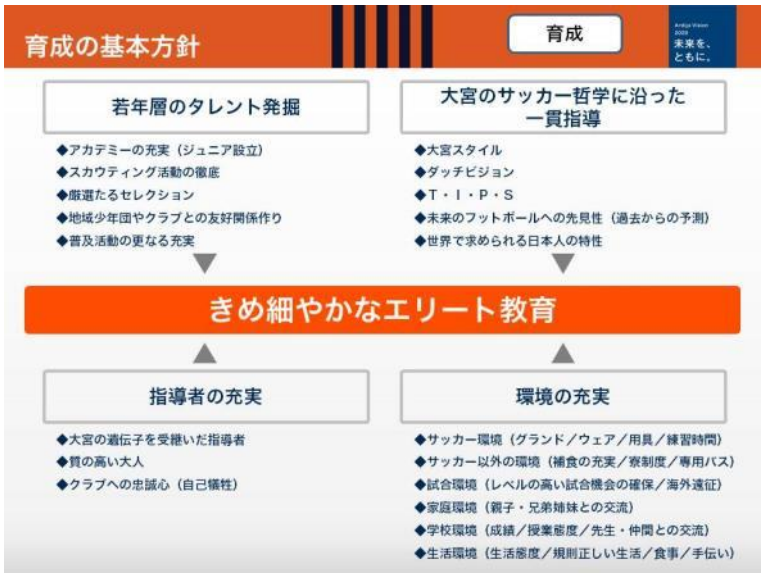
2 つ目は、オフ・ザ・ピッチになります。以前は、サッカーだけを教えていればよかったのですが、今はいろいろと環境が変わってきました。その中でオン・ザ・ピッチだけではなく、オフ・ザ・ピッチも求められています。いろいろな経験を積ませたり、研修を行ったりすることで、常識のある人間に育て、社会性も身に着けていかないといけません。また、埼玉のチームであることを自覚し、地元出身者として地域への誇りを持ち、埼玉の代表であることを意識してもらえたらと思います。

トップ・プロで活躍できる選手を育てるためには、以下の 4 つが大事だと思っています。1 つ目は、若年層のタレントの発掘です。いろいろな施策をやってきていますが、その 1 つとして、アカデミーにジュニアをつくりました。これにより、いろいろな選手にアプローチすることができるようになりました。もう 1 つは、先ほど SCN というのを挙げたのですが、地域少年団やクラブとの友好関係づくりで、地元であるさいたま市北部の少年団と協力しあい、コーチを派遣しています。

2 つ目は一貫指導です。ダッチビジョンというトップチームと同じサッカースタイルで、我々もトップにつながるようなサッカー、スタイルを継承しながら、個を育成できればと思っております。

3 つ目が、指導者の充実となります。これは大宮の遺伝子を受け継いだ指導者ということで、OB を含め、大宮のサッカーを理解している指導者を登用できればと思っています。サッカーだけではなく、やはり人間性も教育できる、そういうコーチを登用できればと思っております。

4 つ目は環境の充実ですが、育成の環境は非常に充実してきました。サッカー環境ではトップチームが以前、使っていた志木が育成専用になっています。(天然)芝が 2 面あり、人工芝が 1 面ある。育成の中では、トップクラスの環境を持たせてもらっています。サッカー以外の環境では、練習後に中学生、高校生は食事ができ、栄養面でもサポートをさせてもらっています。また寮ができたことで、今までユースの選手は 6 時から 8 時まで練習をやり、その後、食事を摂ると 9 時くらいになります。遠い子だと 2 時間くらいかけて通っている子がいました。そうなると家に帰るのが 11 時になってしまい、そのあとに勉強や着替えなどをすると、どうしても寝るのが遅くなってしまい、睡眠時間が十分に取れませんでした。志木のクラブハウスが専用の寮になってからは、睡眠時間も確保できるようになり、成長にも大きくつながっていると思っています。



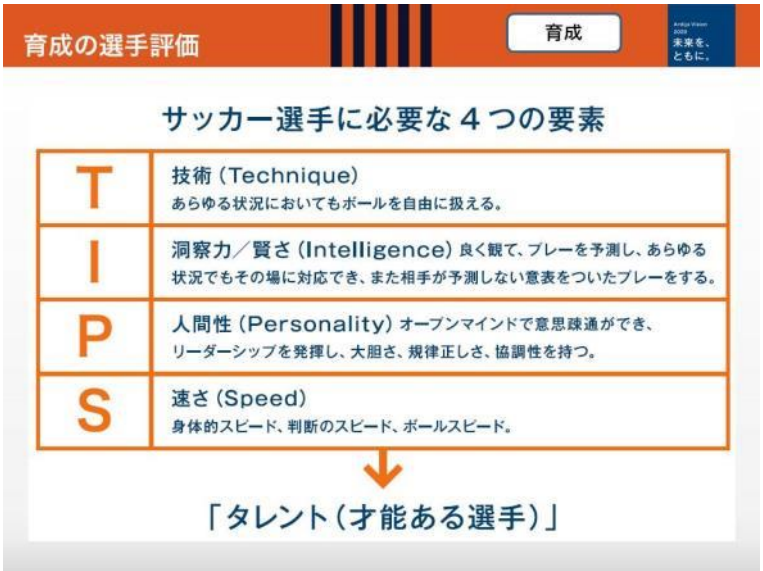
試合環境については、いかにレベルの高いところでできるかが重要です。ユースは、プレミアリーグに参戦しています。ほかにも海外遠征をするなど、常に良い環境でできるようにアプローチしているところです。また、学校との連係も非常に大事になってきています。サッカー選手だからといって、勉強しなくていいわけではありません。入る学校と連携して、アプローチできたらと思っています。この 4 つが充実することによって、良い選手が輩出できるようになると考えています。

次に具体的な施策について話をさせていただきます。Jr.ユースは 2004 年から海外へ行っています。海外遠征を非常に大事にしています。昔はなかなか海外の強いチームと試合ができなかったのですが、実績を積むことでフェイエノールト、PSV、オランダの週末のフェスティバルに出ることでアヤックスとも試合ができるようになりました。また、イングランドでは、マンチェスター・ユナイテッドなどのプレミアクラブのアカデミーが出る世界大会に出るなどして、経験を積ませて、次のカテゴリーを含めて帰ってきてからいかせ

ればと考えています。

環境の充実では、志木グラウンドがアカデミーの専用グラウンドになりました。それによって練習の時間調整を含め、環境が良くなりました。あとは食事の提供、寮の整備。この 3 つで、トレーニング、栄養、休養ができることで、選手として成長できると思っています。

我々が、選手を評価するにあたっては TIPS を使っています。これは Jr.ユース、ユースについて、コーチが年間 2 回評価して、それをフィードバックします。数値化することによって、選手のどこが弱いのか、どこが強いかを把握し、そこを伸ばしていく。T は、テクニック(技術)ですね。あらゆる状況でボールを自由に扱えるテクニックを身に付けさせる。I は、インテリジェンスです。これは洞察力、個人戦術です。よく見てプレーを確認し、状況に応じてどういう判断をすればいいかを理解できているかを評価しています。3 つ目は、パーソナリティ。人間性ですね。リーダーシップのところもあります。この前、(J リーグの)村井チェアマンの話の中で、プロ選手として長くプレーする選手には、判断力であったり、リーダーシップが非常に大事だと話していました。そういう選手が、プロで長く活躍できることもあります。そういったところをいかに成長させていくかが、課題になってくると思います。最後の S は、スピードですね。これは単純に走るだけのスピードではなく、判断のスピードであったり、ボールスピード、パスのボールスピードなどで、テクニックと連動するものになっています。そうした基準を持ち、1 年に 2 回、全選手を評価し、選手たちにフィードバックして、足りないところをアプローチする形をとっています。それを高めることで才能ある選手が、人としても成長していけると考えております。この TIPS は、セレクションの際にも使わせていただいています。いま、おかげさまで多くの方にセレクションに来ていただいていますが、TIPS を活用させていただき、選手を見ています。コーチによって個人個人、一人ひとり見方が違うのではなく、そうして相対的に評価させてもらっています。



ジュニア、Jr.ユース、ユースの各年代に、それぞれ指導指針をつくっています。これは TIC とあるのですが、T はテクニック、I はインサイト、C がコミュニケーションになりま

す。そのほかに全カテゴリーを通じて、フィジカルもあります。発育・発達に合わせて、どう体を鍛えていくか。いきなり小学生がウェイトトレーニングをやっても難しいですし、発育・発達に合わせた練習メニューではコーディネーションも必要ですし、体幹を鍛えることも重要です。体ができ始めたら、最後に強くするために、ウェイトトレーニングのように強い刺激を入れる。そうしたことを考えてやっています。

各年代の指導指針　育成

U11-U12	チームメイトと協力してサッカーの目的に沿ったプレーを学ぶ	1-2-4-1フォーメーション（8人制） 戦術的指示の制限（自由度の確保） 柔軟性を持ってポジションを与える	TIC
(U12) U13	各ポジションの基本的役割を学ぶ。	1-4-4-2フォーメーション（11人制） 戦術的指示の明確化、拡大 各選手のポジションの可能性を見つける	TIC
U14 (U15)	各ポジションの役割を磨き、チーム内での結びつきを学ぶ。	1-4-4-2フォーメーション（11人制） 戦術的指示の明確化、拡大 各選手のポジションの可能性を見つける。	TIC
U15-U16	チームとしての戦い方を学ぶ。	1-4-4-2フォーメーション（11人制） ゲームを読み、両システムを使いこなしながら勝利を目指す。 各選手の長所を活かし、チームの勝利に貢献する。	TIC
U17-U18	全てにおいての競争力の向上＝勝利	タフでタイトな試合の中で質を高める ・各選手の自分の長所を活かし、チームの勝利に貢献する。 ・タイトルを目指す。 ・トップを目指す。	TIC

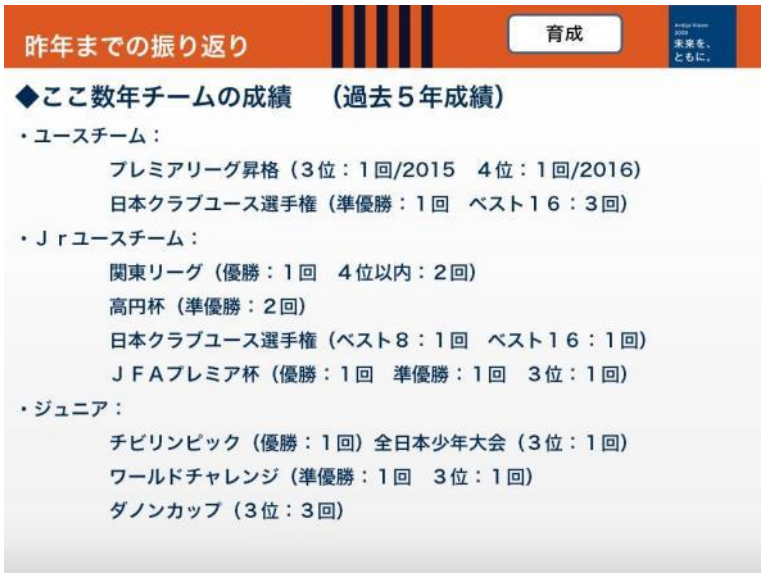
11 歳、12 歳のゴールデンエイジと呼ばれている年代では技術の習得が大切です。その年代に技術トレーニングを行うことで、技術の習得がやりやすくなります。14 歳、15 歳はクラムジーと呼ばれているのですが、体のバランスが変わり、成長が急激に始まります。そこでは個人戦術を重点的にアプローチさせてもらっています。17 歳、18 歳、ユースの最終学年では、すべてにおいて競争社会になります。そこで勝利を目指しながらやっていく。このような活動指針を定めさせていただき、各チームに落とし込んでいる状況です。

昨年までを振り返り、過去 5 年のチームの成績を出させてもらいます。ユースチームは 2015 年からプレミアリーグに昇格することができました。昨年は最終節まで優勝を争えるところまでいきましたが負けてしまい、残念ながら 4 位という結果でした。もっと上位へ、常に優勝争いできるチームをつくっていければと思っています。

Jr.ユースは、関東リーグで 7 位になりました。皆さんの質問の中に、Jr.ユースの成績がちょっと…というものもありましたが、関東リーグは非常にレベルが高いリーグだと思っています。関東リーグの上位 4 位以内が高円宮杯に進めるシード枠なのですが、この 5 年間で一番多いのがマリノスの 5 回です。その次が大宮の 3 回になります。ですから、昨年は成績の部分では、なかなか勝てなかった部分はありますが、決して悲観的になることはないと思っています。昨年は 2 年生も何人か出ています。この学年で 1 つ上の学年の試合に出るのはすごく難しいことですので、今年は期待していただければと思っております。

最後にジュニアになりますが、ジュニアは昨年、初めて全国で優勝することができました。チビリンピックという大会ですが、埼玉県の予選から非常にレベルが高く、県内でもなかなか勝てません。そうした強いチームがいる中で成果が出たので、良い形で次のステ

ップに行けるのではないかと思います。今後は、個人の育成とチームの成績を同時に求めながら行けたらと思います。

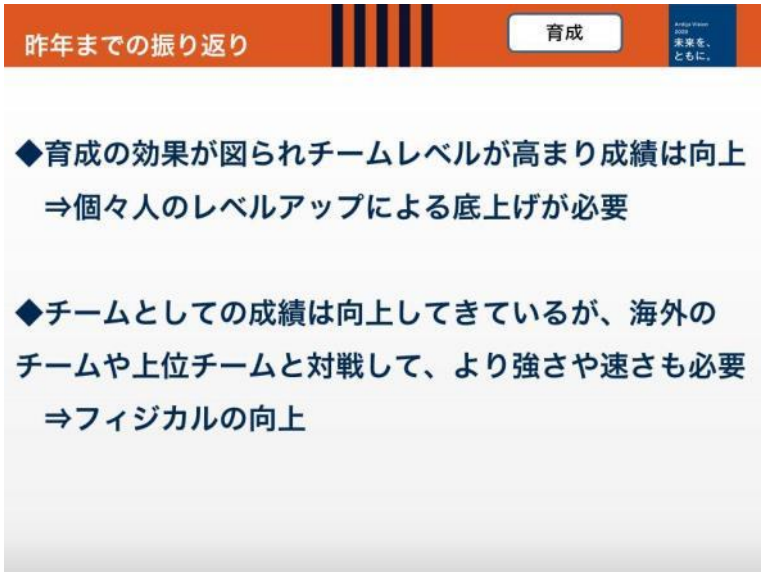


昨年までを振り返り、育成の効果を計るチームレベルも高まっていますし、成績も向上していると思っています。入ってくる選手のレベルも上がってきていると感じます。ですから、戦術的な部分のところプラス個人のところを上げることで、底上げできるのではないかと思っています。チーム戦術トレーニングと、インディビジュアルトレーニング。たとえばシュート練習のような個人の技術を高めるところも、並行できればと思います。

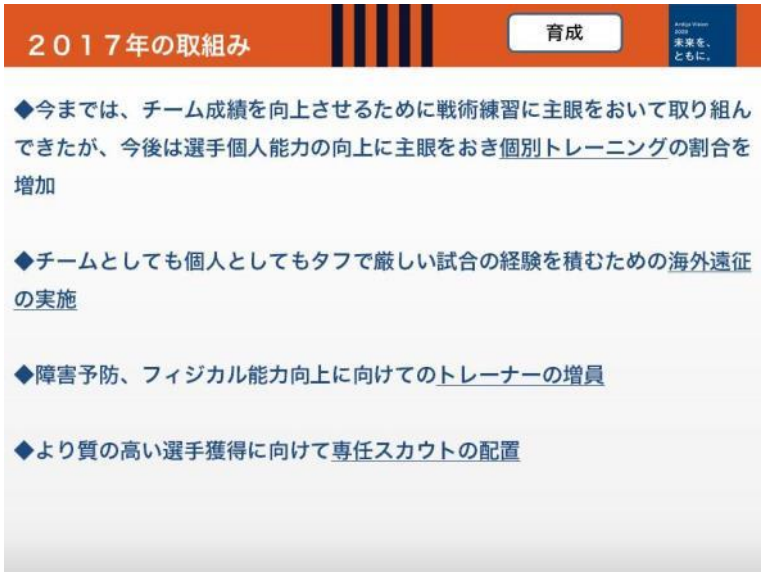
2 つ目としては、チームとしての成績は向上していますが、海外のチームや上位チームと対戦すると、より速さや強さも必要だと感じます。日本のチームとはそこまで差がないのですが、海外のチームと試合をしたときには、どうしても力で負けてしまうところがあります。現代サッカーでフィジカルは非常に大事な部分ですし、そこをどう向上していくかは課題です。先ほど言った、発育・発達を考えながら、まずはケガをしない体づくりをする。そこでどうアプローチをしていくかも、重要になっていくかと思います。

2017 年の取り組みについて、まずは練習のところに変化を加えます。今まではチーム成績が向上するために、戦術練習に主眼を置いて取り組んできましたが、今後は選手個人の能力の向上に主眼を置き、攻撃トレーニングの増加を考えています。レベルの高い選手が増えてきているので、次のアプローチをして、チームの成績を求めながら個人がレベルアップすることで、よりチームを強くすることができると思っています。2 つ目として、先ほどからお話をさせてもらっている海外遠征です。もっともっとしっかり精査して、より強いチームとの試合など、より良い経験ができる海外遠征を実施できればと思います。また、適切な年齢に対してアプローチして、海外遠征をできればと思います。

3 つ目については、先ほども話しましたが、フィジカルをどう向上させるか。傷害予防とフィジカルの向上に向けて、トレーナーを一人、会社に無理を言って、増やしていただきました。そうしたところで体のケアやケガをしない予防、練習のグラウンド以外のところでアプローチできるかなと思います。

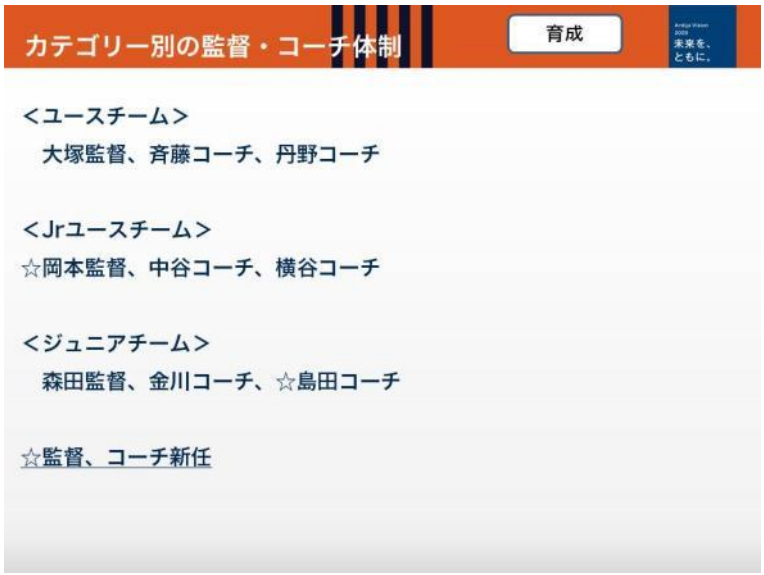


最後に、よりレベルの高い選手の獲得です。これまでうちは、アカデミーの選手獲得に向けた専任のスカウトを置いていませんでした。他のＪリーグクラブは、育成年代にも専任のスカウトを置いているところがあります。ここに新たにスカウトを置くことで、より多くの選手を見て、より良い選手が獲得できるはずです。そうした目的を持ち、今年から専任のスカウトを置くことになりました。こうしたアプローチをしながら、選手、個人の能力プラス成績を上げていければと思っています。



今年のスタッフ編成です。ユースチームは昨年と変わりません。大塚監督、斎藤コーチ、丹野コーチです。Jr.ユースは、今年から奥野監督からアルディージャの元選手である岡本隆吾が監督になります。そして中谷コーチ、横谷コーチになります。ジュニアは森田監督、金川コーチ。あと島田コーチと書いてありますが、OB の島田裕介が今年から戻って来てくれることになりました。先ほど話したクラブ OB ですし、島田コーチは優れたサッカー観

に加えて、技術的にも非常に高いものがあるので、そういったところからも小学生にアプローチできればと思っています。



以上が育成の編成になります。育成を含めて、今年も皆さんのご期待に応えられるように頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

最後に去年も紹介させていただいたのですが、アジアでの活動をアルディージャとして継続的にやっています。それについて説明させていただけたらと思います。2014 年からやっているのが、JCB のスポンサーの付いたサッカー教室です。2016 年までに計 12 回、1200 人以上の子どもたちに教えることができました。それと去年もやった国際交流基金です。私が行って、2020 年の東京オリンピックに、アジアから日本以外にも金メダルを獲らせようということで指導者を派遣している中で、私が行かせていただき、昨年度と今年度行かせていただきました。今年度はラオスに行き、U-19 の代表選手を指導させていただき、アジアのみんなで多くの金メダルを獲っていこうという活動をやっています。

3 つ目がジャイス(JICE)で、昨年はユースチームがベトナム遠征に行きました。今年はまたいろいろな施策を含めて、また協力できればと思っています。4 つ目がシンガポールスポーツスクールの提携です。育成年代で、来週からユースの選手たちがシンガポールへ行って交流します。

新規のところでは、ブータンとの外交 30 周年記念事業でサッカー教室をやらせていただきました。子どもたちが楽しくやっていた笑顔を見せてもらい、またやる気を出させてもらったところがあります。最後になりますが、経済産業省の補助金事業で石油の権益が 2020 年に切れるということで、アブダビとの交流をもっと深めていきたいという日本の施策がありまして、それにも協力させていただいています。この前、ユース年代の選手が来日しました。今度は我々が行き、そういった中で交流を深めていけたらと思っています。

昨年はジャイカ(JICA)とのパートナー契約をプロチームとして初めて登録してもらいました。アジアの活動を続けることによって、いろいろな政府関係者ともコミュニケーションをとれています。こうした活動を通じて地域である埼玉を、もっともっとアピールできたらと思います。以上です。ありがとうございました。

司会 いま、ご説明させていただいたことについて、ここから質疑応答に移らせていただきます。事前にいただいている質問事項は、本日お配りしている資料にも記載していますので、ご確認ください。ご質問のある方は、挙手にてお願いします。私から指名していき、マイクをお渡ししますので、マイクを受け取ったら質問をお願いします。時間の都合上、質問はお一人さま１点、3 分以内でお願いしたいと思います。何とぞ、ご協力をよろしくお願いいたします。それでは質問のある方、挙手にてお願いします。

質問者 1 昨シーズン 5 位という素晴らしい成績で、感動もいただき、非常に楽しかったの

ですが、引分けの数が 11 ありました。特に FW 陣のムルジャ選手、ネイツ選手が、個人的には得点数だったり、機能の部分でどうだったのかなと感じるところがありました。ムルジャ選手とネイツ選手の評価について、教えていただければなと思います。

松本 はい。ご質問ありがとうございます。昨シーズン、5 位で終わりましたが、外国籍選手、先ほども話をさせていただきましたが、もちろん個人のクオリティの問題もあるかもしれませんが、数字でいうとムルジャ選手は年間で PK を 4 本とっています。ただ、蹴ったのは家長選手と甲府戦のネイツ選手でした。やっぱり FW の選手なので、点を取って波に乗れる選手と、点を取れないで周りからのそういう声を聞いたりして、モチベーションが下がることもあるかもしれません。ムルジャ選手、ネイツ選手については、パーソナリティを含めて一生懸命やってくれています。ネイツ選手については 4 得点を挙げていますが、すべて決勝点です。FW としてのポジショニング、そこにいたから点が取れたというところもあります。また、得点に関しては、決め手だけの問題ではなく、ボールの出し手の問題もあります。チャンスをそれだけつくれていたのかどうか。今日も渋谷監督と記者会見で話をしましたが、ペナルティエリア付近でのプレーの数が少なかった。これは、戦術、渋谷監督のやり方、組み合わせを含めて、出し手の問題、受け手の問題もあるでしょう。それを含めて、今年のメンバーであれば、もっと彼らの良さが出るのではないかと期待しています。ですので、個人的な評価としては、うちとしては残ってくれたので、今年もみんなで頑張ろうというところです。ムルジャ選手については、彼がいなかったら、私たちはこの J1 のステージにいなかったでしょう。多分、みなさん、昔からのイメージがあって『大宮と言えば、絶対的な外国籍がいて活躍する』という印象が強すぎているのだと思いますが、特に今はそういうものがありません。確かにムルジャ選手、ネイツ選手が絶対かと言うと、また少し違うのかもしれません。いろいろ思いはあるかもしれませんが、ネイツ選手については、彼に入るクロスボール自体が少なかった。ここについては群馬から来てくれた瀬川選手は、大学時代から右サイドハーフをやっていますし、クロスの精度も高い。アシストも群馬で 13 記録しています。昨年、サイドの選手は、左サイドについては、泉澤選手は切り返して中に入っていくタイプでしたので、どうしてもクロスが少ない。右についてもマテウス選手だったので、カットインして左足シュートが多かったと思います。受け手となる彼らの良さをもっと引き出してあげたいと思っていますし、今年もルヴァンカップもありますし、いろいろな意味で、いろいろなバリエーションの中で、彼らは必要だというところです。彼らについて、不満ですか?（笑）

質問者 1 大丈夫です(笑)。

松本 彼らも、非常に頑張ってくれていますし、相乗効果もあると思います。今年来てくれた大前選手であったり、忘れてはいけない播戸選手であったりとか、彼らがいますので、切磋琢磨でやってもらいたいなというところです。

司会 それでは他にいますか?

質問者 2 去年 1 年、本当にアルディージャが勝って良かったなと思っています。今日も触れそうで触れなかったのですが、浦和。ダービーで勝ってほしいと試合を見ていて思ったのですけど、勝てなかったところが非常に悔しいと思っています。ぜひ、今年は勝ってほしい。あと、いま補強についてありましたが、補強はもうしないんですか?というところを明確に知りたかったのと、終盤に横山選手が出てしまいまして、先ほども少し出ていまし

たが、センターバック陣がケガをしたときはちょっと不安かなと。菊地選手と河本選手、今回すごく失点が少なかったのは、この 2 人によるところが大きかったのですが、菊地選手はケガも多かったと思います。そういうこともあったので、この辺についてもお話しいただけたらと思います。

松本 まずレッズについては、私も勝ちたい。それは、おそらくみんな思っていることですし、勝つためにやっています。というところですね。負けようと思って負けているわけではないですし、勝つために一生懸命やっているので、そこは皆さまに応援をしてもらいたいというところですね。頑張ります。

それからセンターバックのところについては、先ほども言いましたが、こういう世界なので移籍はあります。ただ、誰々のケガがあったりとか言いだしたらキリがありません。そこは前向きに考えたいですし、あのタイミングで他の選手が取れたかというと、他の選手を取ることを考えてもいませんでした。逆に言えば、山越選手、高山選手がいますので、特に心配はしていません。心配だったら、獲っています。補強はこれで完了です。新体制を発表したので、この後また取ることは一切考えていません。ただ、移籍ウィンドウが夏に開きます。年間に 2 回あり、1 月から 3 月の終わりまでが第一ウィンドウ、それから 7 月にもう一度ウィンドウがあるので、そこでということはあるかもしれません。今のところ十分戦える選手がいると思っていますし、このメンバーでやりたいと思っています。私になってから、夏の補強は一切していないので、『困ったら夏に補強して、残留』というイメージもあると思うので、そういうのも払しょくしたいです。逆にお聞きしたいのですが、それは山越選手、高山選手ではダメだということですか?

質問者 2 まだ若いかなと思いました。

松本 ここに来ていただいている方ですから、昨年の試合は見てもらっていますよね?鹿島相手に勝っていますからね。その試合で山越選手は、オウンゴールもありましたけど、十分なプレーをしています。あと、神戸戦ではレアンドロ選手、ペドロ ジュニオール選手に対して、高山選手と山越選手の 2 人でしっかり対応していました。最後は追いつかれてしまいましたが、ああいう“際の”部分をもう一段高めれば十分できますし、心配はしていません。逆に彼らがやる気になっているので、ある意味で良かったのかなと前向きに捉えています。でも、ダメだったら夏のウインドウかな? というくらいでいいですか(笑)。レッズには必ず勝ちますので。

森 どうもありがとうございます。もちろんレッズにも、他のチームにも勝ちたいです。今日の新体制会見、強化本部長の話を聞いていると、私自身もダマされているのではないかと思ってですね、このままいくと優勝しちゃうんじゃないかという勢いで説明していますが、私もダマされないように、前半のチームを見て、松本本部長のところをしっかり叩いて行きたいと思っていますので、皆さまもどうぞよろしくお願いいたします。

松本 サポートありがとうございます(笑)。

司会 すみません。時間がかなり押していますので、次の質問を今回は最後にさせていただき、会の最後にも全体を通じての質疑応答の場を持つので、ご了承ください。それでは質問のある方、お願いいたします。質問内容を 1 点に絞ってお願いいたします。

質問者 3 他でもない家長選手のことですが、家長選手が移籍するのではないかという報道が出てから、移籍することになってしまったのですが、大前選手の獲得が報道でも出たので、家長選手が出るタイミングで出ていたので、代わりにとったのかなというところですが、ちょっと対応が遅いというか、後手に回ったところがあったのかなと個人的に感じました。その辺について、もしお答えできるようでしたら、お答えいただけますでしょうか。大前選手の獲得は予定通りだったのか、ちょっと計算が狂ったのか。家長選手が残ってくれる可能性があったのか。どういった経緯があったのか、知りたいと思っています。もし、答えられなければ大丈夫ですので。

松本 逆に言うと、大前選手では不満だと? もっと良い選手がいたのではないかと?

質問者 3 いえいえ、そんなことはありません。よく獲れたなと。

松本 この件については、別に代わりというわけではありません。もちろん家長選手、泉澤選手には、ぜひ残ってほしいと思っていました。あれだけの選手で、家長選手については僕のガンバの後輩ですし、(泉澤) 仁については自分がスカウトして連れて来た選手なので。移籍に関しては、本人の意思、タイミング、条件の提示についてもそうですが、仲介人もいますし、様々な要素が絡み合います。僕の交渉がうまくいかなかったのかもしれません。それはわかりませんが、彼らは移籍すると決めました。あとは選手の加入が決まったタイミングについては、別に代わりではありません。家長選手には家長選手の良さ。泉澤選手には、泉澤選手の良さ。大前選手には大前選手の良さがあります。泉澤選手と家長選手の代わりはいないと思います。(泉澤) 仁のドリブルであるゼロヒャクができる選手なんていませんし、家長選手のあのキープ力は日本の中で探しても多分いません。いないんですよね。それで同じスタイルができるかどうかというのはありますが、うちらは、ボールを動かして、しっかりとイニシアチブ、主導権を握ってサッカーをやりたいんだと。そのベースは崩しません。家長選手が移籍したタイミングで、大前選手の獲得があったので、皆さんにはどう思われても仕方がないところです。ただ、私もこういう世界でお世話になっていますので、仲介人と連絡を取り合いながら、リストを挙げていますので、タイミングが合ったということです。あとは、大宮のサッカーというのが、だいぶ今 J リーグの中で、選手の選択肢に入ってきていると。大宮でやりたい、今のサッカーであればぜひ行きたいと言ってくれる選手が本当に多くなり、仲介人からも色々な話を言われて、『誰をピックアップしようかな?』というくらいのクラブになりつつあります。家長選手の代わりが大前選手だと思われてしまうのも、言葉は悪いですが、結構です。ただ、彼には彼の良さがありますし、プレースタイルも違いますので、いろいろな意味で楽しみです。そのように前向きに捉えていますが、家長選手が移籍してしまったのは、僕の交渉が下手だったんでしょうね。でも、これだけの選手が来てくれています。

質問者 3 ありがとうございます。すごく期待しています。家長選手がいない試合は、なかなか成績が出なかったのかなと、去年を見ていて感じていたので。

松本 って言うでしょ? ただ、昨シーズン 8 試合、ケガと出場停止があったのですが、実際には 2 勝 4 分 2 敗なんです。ルヴァンカップ、天皇杯についても、ほとんど出ていないんです。なので、イメージが強過ぎるんですよね。僕も彼のプレーは見ていて面白かったですしね。僕は毎日、練習を見ているのですが、本当にうまいんですよ。うまい。それは僕

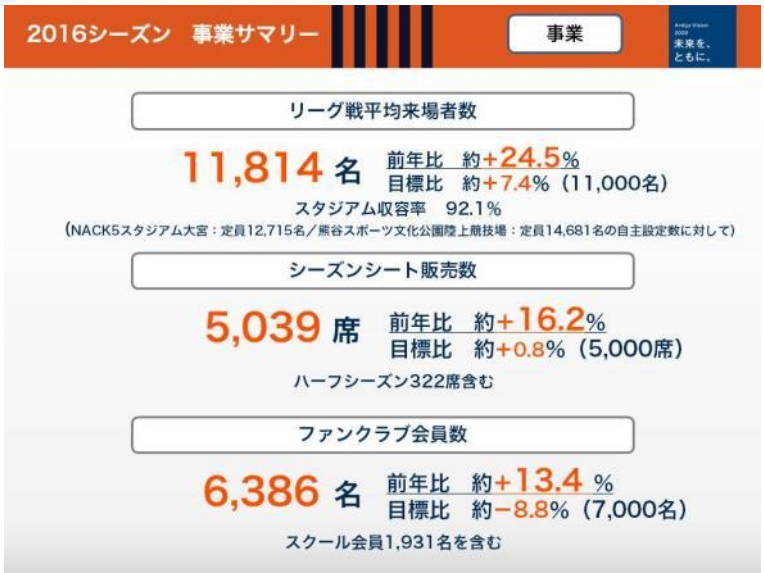
も見ていて思うのですが、でも数字上でもそうですし、天皇杯の川崎 F 戦も先発では出ていません。まぁ、欲を言えば、いてほしかったですけど、いないので。これは仕方がない。頑張りますので、応援よろしくお願いいたします。

質問者 3 逆に期待しています。家長選手がいなくても勝てるところを見せていただきたいと思います。

松本頑張ります。ありがとうございます。

司会 ありがとうございました。次の議題に進めさせていただきたいと思います。続きまして、取締役事業本部長の久保田より、事業全般について。取締役管理本部長の小笠原より、コンプライアンスについて、ご説明させていただきます。

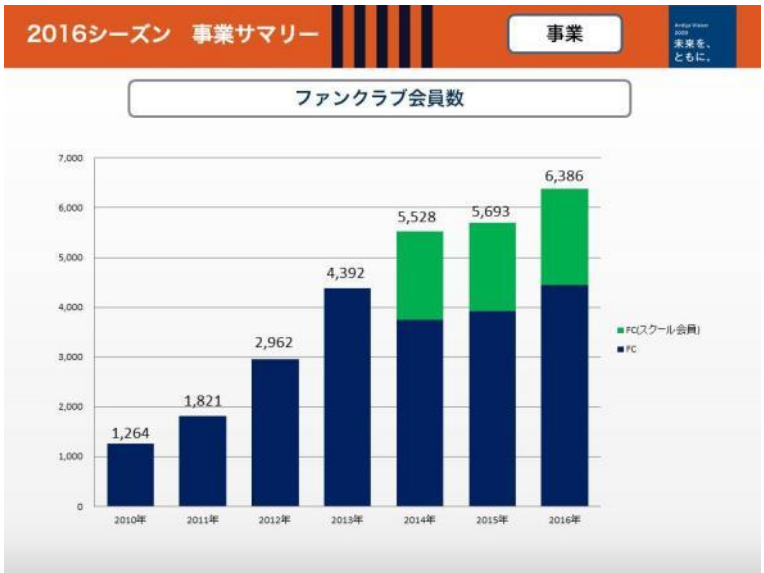
久保田 すみません。毎年のように時間が押してしまって申し訳ありません。事業関係について、私、久保田からレビューさせていただきます。お話するのは 3 つです。2016 年の振り返り、2017 年の主な目標とか施策の話。それから、たくさんご質問をいただいておりますスタジアム関連のお話を、私からさせていただきたいと思っています。



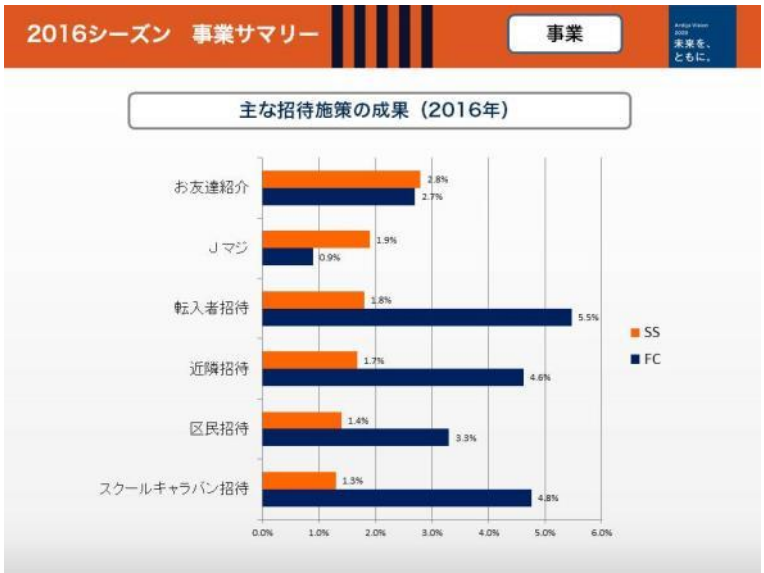
まず数字関係ですが、リーグ戦の平均来場者数は 11,814 名でした。目標の 11,000 人を大きく上回っておりますし、前年比でも上回っております。皆さまの多大なるご支援、サポートのおかげだと思います。スタジアム収容率についてもよく話をさせていただいていますが、ＮＡＣＫ５スタジアム大宮の収容率は、12,715 人を我々の自主定員数にしています。それから熊谷の 14,681 人という定員数をもとに計算しますと、92%ということで、ほぼ満員になっています。年間の完売数は 8 試合でした。シーズンシートも、ハーフシーズンを含めてですが、5,000 席を超えてきています。さらにファンクラブの会員数は、目標をかなり高く掲げていたこともあって、目標には少し届きませんでしたが、シーズンチケットをお持ちの方を除いて、6,386 という数字まで来ています。リーグ戦の平均来場者数の推移ですが、グラフがデコボコしていますが、近年では最高の数字です。先ほど申し上げたとおり、収容率が 92%なので、ほぼほぼ満員に近い状態です。もちろん中身の問題がありますので、この後にお話します。

それからシーズンシートホルダーは、ご覧のように一気に突き抜けた感があります。5,000 席を超えてきているので、この先、また伸ばすことを考えていきますが、参考までにということで、Ｊ１のシーズンシートの平均が、約 6,800 席。Ｊ２は約 2,500 席ですから、大宮のシーズンシートの販売数は、少なくともＪ１レベルにあるということです。皆さまにお買い求めいただいているおかげで、大宮もだんだんとお客さんも増えてきています。スタジアムでも実感をお持ちかと思いますが、数字でも増えてきています。

ファンクラブの会員数も、3 年前からスクール会員を自動的に会員にしているので増えていますが、2010 年以前と比べると、5 倍から 6 倍に増えています。毎年のように見せていますが、今年も順調に増えていることを、ご報告させていただきます。この要因ですが、これも去年も少しご説明しましたが、やはり、お友達紹介ですね。たくさんご意見をいただいていまして、招待券の使い方の問題等々もあるのは事実ですが、パーセンテージでも、他の招待策の中でも抜きんでて高いです。青のところがファンクラブの効果のパーセンテージですが、一見、転入者や近隣とかが高いように見えますが、実数ベースでは 10 倍以上の数字で、お友達紹介の数字が多いです。本当にみなさんにお友達を誘ってもらって、サポーターさんが増えている、ファンの方が増えている、来場者が増えているというのが実態です。使い方のいろいろな問題がありますし、改善もしていきたいですが、もう少し、お友達紹介を続けさせていただき、ＮＡＣＫ５スタジアム大宮をオレンジで染めていくことをやっていきたい。チームを後押しする雰囲気をつくっていきたいと思っているので、ぜひ引き続きよろしくお願いいたします。



今度は 2 番目のところですが、今年何を目指すのかをお話しさせていただきます。来場者に関しては、もう上限に来ているという感覚を持っています。座席数 11,800 に対して、シーズンシートは 5,800。今のペースですと 6,000 くらい行くようなペースで販売はできていますが、5,800。ファンクラブの数は 7,000 です。単純に 5,800 と 7,000 を足した、約 13,000 が、アルディージャのファンのベースの部分になると考えています。平均来場者数やスタジアムの収容数を考えると、かなりの数になります。シーズンシートのお客様ですと、9 割くらいの来場者があります。数年先には、場合によってはシーズンシートを売り止めすることもしなければいけない状況になると思います。Ｊリーグでは、少ないと思いますが、そういうことが可能性としてはあると思います。とはいえ、まだまだ余力があるということで、社長の森からも話がありましたが、いろいろな施策を続けていきます。途中で申し上げたように、お友達紹介は、ルールの変更を少し検討しますが、続けさせていただきます。その他の招待策もやります。さらに、県とか市の施設関係、これもご質問などでご提案いただいていますが、盆栽の世界大会があったり、鉄道博物館も含めて、市内のイベントとのコラボも引き続きやっていきます。また、スマートスタジアムは去年チャレンジして、まだまだご利用する上で、ご不便があるかと思いますが、アンテナの増強を含めてしっかりやっていきたいと思います。これは大宮がＪリーグの中でも一番進んでいるクラブになっていますので、このあたりもやっていきたいと思います。新規でいうと、これも一部クラブ公式サイトに出ていますが、E エリア。今のビジターのエリアを、ホームサポーターゾーンとして常設で一部、席を確保します。これは去年も質問にありましたが、いよいよやろうかなと。最低でも 2 ブロック、席数では 700～800 席はホームで確保します。浦和戦でも、FC 東京戦でも、ホーム席をつくりますので、みなさんに来ていただいて、ホームの後押しをできる環境にしていただきたい。もちろん緩衝帯もとっていきますので、正直、営業的にはリスクはあるのですが、ビジター頼みのクラブではなく、しっかりホームのお客様で埋められるような大宮をつくっていきたいと思います。ご協力いただきたいことばかりで申し訳ないのですが、これもお願いになります。ルールも今後、発表していきます。

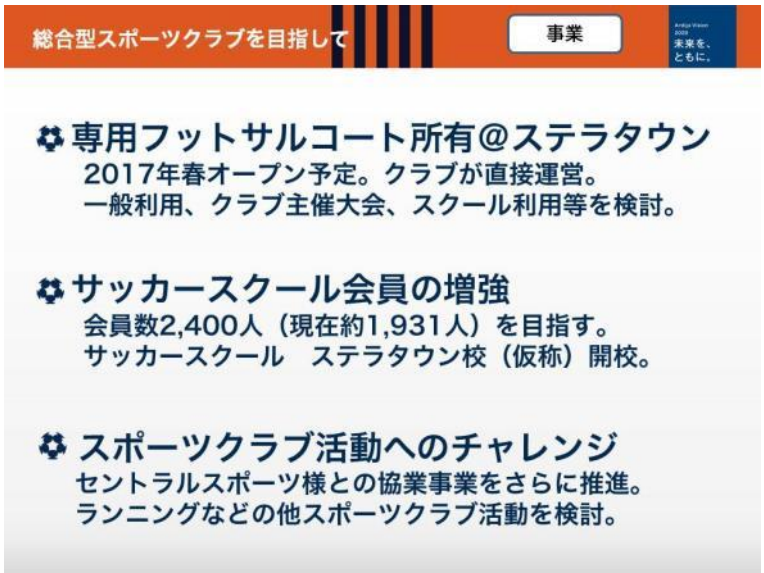


これに伴いまして、スタジアムグルメをホームエリアは全部やろうと考えています。売店についても、ご意見をよくいただきますが、アクセスできる売店数を増やします。また今度、投票をやりますが、2 店舗だけしか行けないとか、そういうことにはなりません。4 店舗以上に行けるようになるので、そのあたりも改善できるかと思います。それから、ご意見をいくつかいただいている中でいうと、サマーブレイクを活用して、ファンフェスティバルをやる予定です。日にちはまだ決めていないので、強化と相談でやっていきますが、基本的には開催します。ぜひ、ご参加いただきたいなと思います。

これも森から話がありましたが、サマーブレイクを生かして、海外クラブとフレンドリーマッチをやりたいと思います。できれば、シティカップにしていただきたいので、さいたま市さんにもお願いをしていきますが、欧州のクラブと試合をやりたいということで、交渉をしています。クラブ名は言えませんが、いくつかのクラブを候補にしていますので、実現できれば、皆さまに来ていただきたいなと思います。

今年ではないのですが、来シーズン、いよいよクラブの 20 周年という節目を迎えます。チームが頑張ってタイトルを獲ってくれるでしょうし、上位にも行ってくれると思います。クラブとしても記念事業をたくさんやっていきたいので、20 周年の記念プロジェクト的なところで、皆さまのご意見をいただける場をつくりますので、ぜひ、ご意見をいただきたいなと思います。

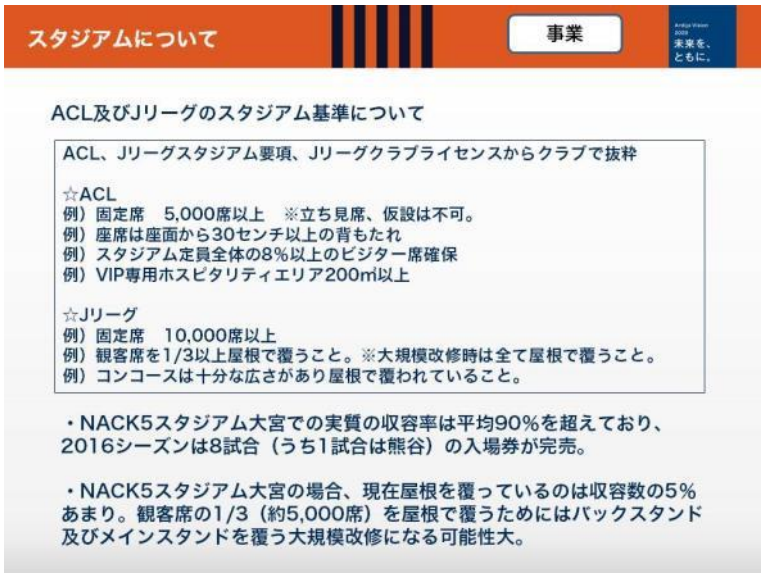
今度はスタジアムではなくて、経営の安定化にもつながります地域の未来について。これも森から説明をさせていただきましたが、専用フットサルコートを、ステラタウンに建設することが決まりました。今年の春オープンです。4 月になるか、5 月になるかというところですが、ステラタウンさんの北側の駐車場の屋上に 2 面できます。皆さまの中にも、フットサルを楽しんでいる方もいらっしゃると思いますが、ぜひ、来ていただきたいですし、スクールもそこに開校します。これまで北区にはスクールがなかったのですが、ここも開校します。こういったことを続けながら、セントラルスポーツさんともいろいろな提携を結び、イベントをやっているのですが、総合型スポーツクラブ化の一歩、二歩として、今年はランニングクラブもつくりたいという話をしています。いろいろなスポーツ活動をしたり、フットサルコートをつくり、スクールを拡大します。また、こちらはタイミングがありますが指定管理の検討、そうした実績をつくりあげながら、スタジアムという話に持って行きたいと思います。

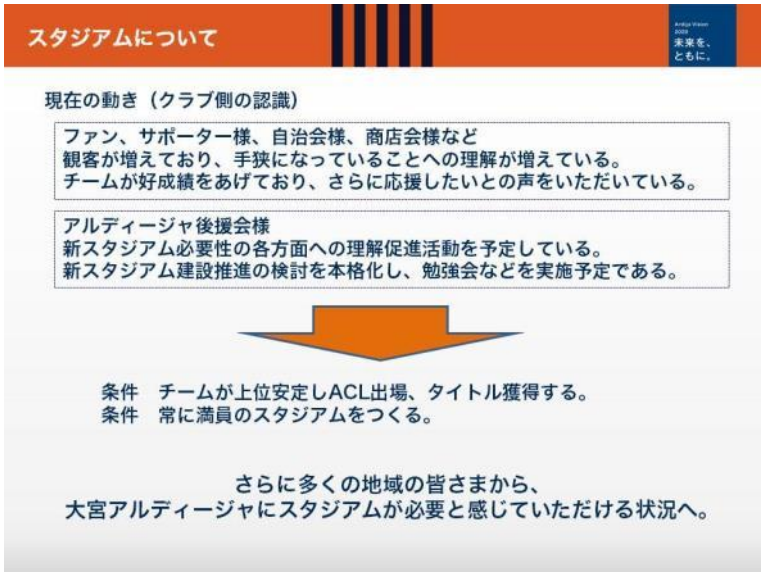


ここから 3 つ目のスタジアムのお話をしたいと思います。新スタジアムなり、スタジアムが必要だという根拠について、いくつかある中の 1 つとしては、スタジアム基準がどういう状況かを確認したいと思います。「ACL に出たら、ＮＡＣＫは使えるのですか?」という問い合わせを、よくいただくのですが、我々では判断がついていません。質問集には、「ＮＡＣＫでやりたいと思っています」と回答をしているのですが、ACL では固定席が 5,000 席以上必要と言われています。ＮＡＣＫ５スタジアム大宮は、1 万席以上あるのですが、立見席を使ってはいけないことになっています。そうなると、今のゴール裏にお客様を入れられないことになります。今のゴール裏にお客様がいない状態でやるのですか? というところは、ちょっと課題になってきます。今、川崎 F さんが等々力を改修して、背もたれの付いている席を移設する工事をするとうかがっていますが、背もたれが 30 センチ以上ないといけません。今のＮＡＣＫ５スタジアム大宮は、25、6 センチだったと思いますが、それを許してくれるかどうかが分かりません。まだ ACL に出ることになっていないので。参考までにですが、スタジアム全体の 8%以上のビジター席確保がルールになっていて、ＮＡＣＫ

５スタジアム大宮の場合は、1,200 席あまりを確保する必要があります。先ほど、E エリアを一部ホーム側にするとしましたが、今は最大で 3,500 席くらい出しているので、全く問題ありません。さらに細かく言うと VIP エリアの平米数ですとか、プレスルームのサイズとか、細かい取り決めがありますが、主なものはこんなものです。Ｊリーグの方が実は厳しくて、固定席が 1 万席以上。これは改修していただいたので、ぎりぎりあります。問題なのは屋根です。3 分の 1 以上を屋根で覆うことというのを、ご存知な方も多いかもしれませんが、※が打ってあるのですが、『大規模改修時はすべて屋根を覆うこと』がルールになっています。ですので、ＮＡＣＫ５スタジアム大宮の場合、たとえばバックスタンドに屋根をかけようとすると、メインスタンドを一度全部取り壊して、手前から重機を入れて屋根をつくることになります。要するに、メインもバックも改修しなければいけなくなるため、自動的に大規模改修となり、両方に屋根をかけなければいけなくなる判断を下される可能性が高いと考えられます。ですので、今のＮＡＣＫ５スタジアム大宮を改修してなんとかなることも、もしかしたら難しいのかな? と思っているということです。現在、4 億円くらいの入場料収入がありますが、それではＪ１の上位ではやっていけません。強くなるためには、倍くらい入場料で稼げるクラブになっていかないといけません。ですから、スタジアムは大きい物がほしいという今の考えになっています。

現在の動きはどうなんですか? というのは、なかなかお伝えしづらいところがあるとご理解いただきたいです。クラブとして、スタジアムが欲しいのは間違いないのですが、「お客さんが増えていて、手狭だよね」というのは、皆さまからも言っていただいています。今日、来ている方々からは、特に強く言ってもらっていると思いますが、まだまだ、もっともっとたくさんの方に言っていただく必要があると、皆さまにお願いを兼ねて、お伝えします。後援会の方にも、ご理解をいただいていて、勉強会を開いたり、いろいろなロビー活動、働きかけをやっていただいていますが、やはりチームが、これは我々の問題でもあるのですが、上位に安定して、ACL に出るとか、タイトルを獲得するというインパクトが必要です。ガンバさんも、吹田スタジアムを建設するきっかけになったのは、ACL 出場だと聞いていますので、ACL に出られるようなクラブになっていく。同時に、常に満員のスタジアムでやる。満員なのはわかったけど、招待券をいっぱい使っているんじゃないかと言われないように、少しずつ招待券を減らしていきますが、本当の意味で満員のスタジアムをつくっていかないといけません。もちろん安全の確保はやっていきますが、本当の意味での満員。それから成績が伴って、最高のボルテージをつくっていかないと、町の皆さんを動かすことはできないのかなと考えております。答えになっているかどうか、はなはだ苦しい所もあるのですが、理解いただければ幸いかなと。申し訳ありません。ですから、さらに多くの地域の皆さまから、アルディージャにスタジアムが本当に必要だよね、という声をたくさん、たくさん、たくさん集めてもらえるように、お願いしたいなというのが、今日のスタジアムに関するお話になりますので、ご理解いただければと思っております。



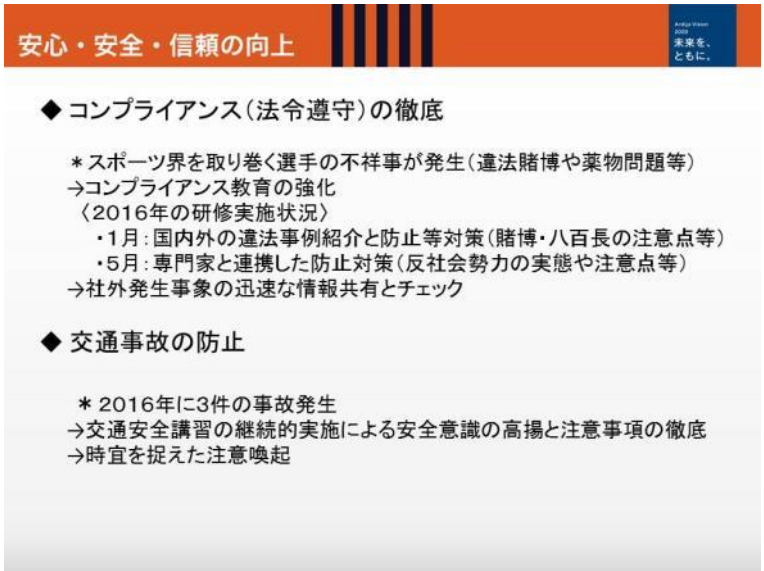


ここで、事業について、小笠原にバトンタッチします。

小笠原 管理本部の小笠原です。私からは、安心、安全、信頼の向上の取り組みについて、説明をいたします。1 つは、コンプライアンスの徹底です。みなさんも記憶に新しいと思いますが、昨年はスポーツ界を取り巻く選手の不祥事、賭博だとか、薬物だとか、そういったことの報道を本当に多く目にしたと思います。ああいう事態が起きると、チーム、クラブは当然のことですが、せっかく夢見たプロの選手生命が断たれることもあります。本当に悲しい事態を招くことも、目の当たりにさせられました。『我々は大丈夫か?』ということで、甘んじることなく、皆さまに日頃、夢と感動を与えられるクラブになりたいという思いがありますので、こういった事態は絶対に起こしてはいけないということで、クラブ全体が認識を新たにして、取り組みを進めていきます。毎年 1 月には、シーズン前に選手に対してコンプライアンス研修をやっています。そのときは、どちらかというと海外で起きている賭博だとか、八百長の実態とかを中心に説明してきておりました。日本より、海外

ではこんなことが起きていますとやってきたのですが、去年はシーズンの途中に国内でもそういった事象があったので、異例ではあったのですが、専門家、具体的には県警の方に協力をいただき、反社会勢力の実態とか、陥りやすい注意点とか、そういったことを選手たちに研修で伝えました。選手たちのモラル、倫理観を高めるのは当然ですが、ともすれば甘い誘いに乗ってしまったり、誘惑に負けたりすることが発端になるケースもあると感じておりましたので、そういったことがないように、我々を含めて再認識しました。もう1つは、我々のクラブで起きていないから大丈夫ということではなく、外で起きている事象を共有し、我々もそういったことを他山の石として、チェックして、大丈夫だという体制も整えてまいりました。いずれにしても、今まで以上に高い倫理観をもって取り組もうということで、去年はクラブ全体が進めてまいりました。

もう1つは交通事故の防止です。昨年もお話しさせていただきましたが、2016年も3件の交通事故が発生しました。1つは被害事故でしたので致し方がないとしても、残り2件は我々の不注意による事故です。これも幸い、物損事故で済み大事には至りませんでしたが、1つ間違えれば重大事故につながりかねません。こういったことに関しても、その都度、注意喚起をはかってきました。もう1つは、安全運転講習会。これも意識の問題だけではなく、事故が起こりやすい環境とか、そういったものを専門の人を招いて、講習会をしたりして取り組んでおります。ただ、まだ撲滅に至っていませんので、今年度も引き続き、こういったことに力を入れてやっていきたいと思います。いずれにしても、チームが良い成績を収めて、クラブが成長するためには、こういったことは絶対にあってはいけないことです。もう一回、ここで気を引き締めて、皆さまに安心して応援していただける環境づくりにも努めていきたいと思いますので、今年も引き続き、よろしくお願いいたします。どうもありがとうございました。



司会 これより質疑応答に行きたいと思います。時間の関係もございますので、事業、管理本部の話については、お一人の質問を受けて、その後、全体の質疑応答に移りたいと思います。ご質問のある方、挙手にてお願いします。

質問者4 私からは、(配布資料)事業の154の累計ポイントの繰り越しに関して、これは何

故できないのでしょうかという質問です。これは回答の中では、『ポイントラリーは、そのシーズンのみ対象で切らせてもらっている』となっていますが、残ったポイントがもったいないという意味ではなく、残ったポイントを有効的に使ってくれるのであれば、ポイントを残すことも素晴らしいと思います。逆に、ポイントを貯めて、サンクスパーティーにぜひ行ってみたいという使い方もあると思います。なので、永久ポイントとは言いませんが、シーズンシートを来年も更新した者に関しては継続できるということを、もう一度、お計らいいただければなと思います。それから、大型ビジョンは、他のチームさんではイエローカードが出ると、その選手のところにイエローが表示されたりして、非常にわかりやすくなっています。遠目で見ていますと、相手選手を含め、どの選手がイエローカードをもらったのか、発表もありませんので、わかりづらいのがあります。黄色のマークを付けるくらい、できるのではないでしょうか。この 2 点を、お願いします。

久保田 ご質問ありがとうございます。ポイントの持ち越しは、今のところ、ちょっとないのかなということで、ご回答させていただきましたが、あらためてお預かりして検討させていただきます。ビジョンの方は、ＮＡＣＫ５スタジアム大宮では、物理的にできないんです。ということで、これも申し訳ないです。検討はしたのですが、今のシステムでは難しいと聞いているので、ご了承ください。

司会 よろしいでしょうか。それでは、これから 20 分間、全体を通しての質疑応答を行います。ご質問ある方、挙手にてお願いいたします。

質問者 5 2 階席の応援ルールの確認をさせてください。私、母親が 74 歳なのですが、同じようにアルディージャが好きで、いつも応援に行っています。2 階席のホットゾーンで積極的に応援をしているのですが、混んでいたりして席が取れないとき、それ以外のところに行くと、「立って応援すると、見えないからやめてくれ」と言われるそうなんです。そうなると仕方がないので、本当は立って応援したいのですが、応援を控えているということを言われます。まず、2 階席で立って応援するのはいいのか悪いのかということと、ホットゾーン以外で立って応援ができないということでしたら、ホットゾーンを広げることも考えないといけないのかなと思うのですが、こちらに関しての考え方をお聞かせください。

久保田 質問ありがとうございます。ホットゾーンも含めて、まず 2 階席で立っていいかどうかは、立っていいということになっています。ただ、危ないので気を付けて立ってくださいということになっています。現にビジターは、みなさん立って応援されています。ホットゾーンは、功罪と言う言葉が適切かはわかりませんが、いくつかご質問をいただいていますし、前にもご意見をいただいているので、なかなか難しいのですが、全部がホットゾーンと考えるべき論があってのことなのかもしれませんが、なかなかＮＡＣＫ５スタジアム大宮の場合、いわゆるゴール裏の席が一番多い関係で、いろいろなご志向の方がいらっしゃいます。それを少し、棲み分けをするというと語弊がありますが、少しでもそういったことがないようにと、ホットゾーンをつくったという経緯もあります。ですから、広げる、広げないという論議も、本当に賛否両論になります。『ちょっとクラブどうなの?』と思われるかもしれませんが、自然にそれが広がっていけばいいのかな、と思っておりました。ここから先は立ってください。ここから先は座ってくださいというものではないのかなと、すごく思っています。ですから、ホットゾーン以外でも立っていただいて、周りの方が一緒に、たとえば最初にスタンディングオベーションで迎えていただくケースや得点時とか、あるいは最後の追い上げするとか、逃げ切るとか、いろいろな大事な場面から、

少しずつ皆さんに応援をしていただいて、ビジターに負けないような圧で応援をしていただく環境が、自然にできればいいと思っています。トラブルが多いようであれば、クラブも入っていかないといけませんが、そういうことをすること自体も、本来はするべきではないのかなと悩みながらいるのが現状です。答えになっていないかもしれませんが、ですから、まず立っていいかどうかは、立っていいのですが、お気をつけていただいて、ということになります。よろしくお願いいたします。

質問者 5 ありがとうございます。では、立って応援をしたいと思います。ただ、そうなると後ろとのトラブルがあるみたいなので。

久保田 そうですね。後ろの方にも配慮をしていただいて、お声がけをしていただき、「一緒にやりましょう」というような感じになると、本当はいいのかなと思います。

質問者 5 大宮のサポーターになる方には、昔、浦和のサポーターだった人も、結構いらっしゃって、一部の浦和サポーターの乱暴さとか、そういうのが好きじゃない人がいます。最近、いろいろな人が増えると、心無い野次を出す人、トラブルになりそうじゃないかなというところも、結構あるので、できれば、サポーターズミーティングを年に 1 回だけではなく、応援に関しては、いろいろなサポーター歴の人もいますので、そういう人の声も聞く機会を設けていただいて、一緒になって応援できるような取り組みを、クラブとしてもっと出していただけるといいのかなと思いますので、よろしくお願いいたします。

久保田 かしこまりました。ありがとうございました。

司会 それでは、他にございますか? はい。そちらの方。

質問者 6 塚本アンバサダーは大宮の宝であり、人材としての質問というか要望です。塚本アンバサダーに様々なチャレンジをしていただいたり、日々、地道な活動をしていただいていますが、やはり大宮の歴史を語る上では、将来的には、今そこに座っていらっしゃる松本さんとか岡本さんの席に、塚本アンバサダーには座ってほしいなという個人的な希望があります。試合のときにスタジアムで握手できないのはやはり寂しいのですが、塚本アンバサダーには何年か海外に行って勉強をしてもらうとか、何か将来的に、ぜひ大宮の将来のために、あるいは、松本さんとか岡本さんの下で、片腕となって働いてもらうとか、大事に育てていきたいという要望です。今日もここにいらっしゃるので、なかなかコメントはしづらいと思いますが、以上です。

森 優しい言葉を、ありがとうございます。塚本アンバサダーは、これまでおっしゃられた様にチャレンジをしてまいりました。それは、ある意味、彼が今年どういった形でリハビリを含めて、進んでいくんだという流れでやってきたところです。ただ、そのチャレンジも毎年毎年、これをいつまで続けるのかというのもあります。正直、これからの彼の将来、ある意味、今年、それから将来に向けてというところを、今年度、私と泰史で直接話をしました。ただ、いますぐフロントに入ることではないのですが、いろいろな勉強をして、いろいろなリハビリというか、まだこれからサッカーに関わっていくチャンスとか、そういったところをしっかり計画的に今年 1 年を過ごそうじゃないかということで、泰史とは、シーズンが始まる前にお話をさせていただきました。プログラムも含めて、これから勉強しないといけないことが、まだまだ泰史にもあると思うので、我々はしっかり彼を育てて

いきたいと思っています。すぐに松本本部長の右腕になるというのは、今年、来年ということではないかもしれませんが、人材育成の中で、私と事業部と、それから本人とで決めていきたいと思っています。ご心配いただいて、本当にありがとうございます。我々も頑張っていきますので、どうぞよろしくお願いします。

司会 ありがとうございます。他に質問はございますでしょうか?

質問者 7 クラブの目標についてですが、Ｊ１上位、安定を目指すということですが、松本強化本部長も「やるからには優勝」とおっしゃっていただいたのですが、対外的には、「やるからにはタイトルを目指す」ということを、クラブのスタッフから前面に出してほしいです。というのも、長谷川アーリアジャスール選手がコメントで、「必ずタイトルを獲りましょう」と言って入団しています。やはりクラブから公に「優勝します」と出すのは難しいと思いますが、タイトルを考えながらチームを運営していきますということを前面に出していただくと、かなりサポーターとしてもありがたいのですが、いかがでしょうか?

松本 はい。ご質問ありがとうございます。なので、そういうふうに言ったつもりだったのですけど。具体的な目標としては 50 以上、9 位以上を目指す、と。ただ、やるからには優勝を目指してやりますと選手にも伝えています。表向きには数字を出していますが、やるからには上を目指しますと伝えているのですが、『タイトルを』という表現が欲しいということですね。もちろん、やるからにはやりますが、いろいろな考えがありますよね。ルヴァンカップについては、2005 年以来のベスト 8。それから天皇杯についても 2005 年以来のベスト 4 ということがありますので、もちろん選手にも伝えていますし、渋谷監督とも話しをしているので。もちろん、やるからには求めています。ただ私的には、まだまだやることがあります。選手の中でも、『まだまだ、大樹さん、まだでしょ』と言う選手もいますし、やるからには一生懸命やりますが、しっかり目標を持ち、ベースを越える。先ほども言いましたが、勝点 48 を超えた時点で、明らかにクラブ、選手も代わりました。そこを今年も、また求めていきたいなというところです。少しずつやっていきたいな、というところです。

森 タイトルは、確かに狙っていきますし、『タイトル争いをする』という表現にさせていただいています。それは昨年の振り返りの中でも、最後の 1 勝、最後の壁みたいなものを、しっかりと乗り越えて、狙った上でタイトルを獲りにいくということだと思っています。ですので、もちろんしっかりとつなげていくということですが、その意味で、今年はスローガンの中に『強く』ということを、監督も、本当に心を込めて、『強く』という言葉を使っていますので、我々としてもそこに向けて進んでいきたいと思っています。

司会 よろしいでしょうか。他にございますか?

質問者 8 私はこれに参加するのは 2 年ぶりなのですが、前回、ちょっと疑問に感じたところがありまして、ここで質問させていただきます。前回は、前社長がいろいろな疑問に対して「株主様」「株主様」という発言をされておりまして、アルディージャというのは会社組織ですが、株主様、地域社会の会社、そしてファン・サポーター。この 3 名のそれぞれの応援で成り立っている、と。ステークホルダーの関係がある中で、ファン・サポーター、この辺の関係についてですね。先ほど、シーズンシートはドンと増えて良くなってきている。収益性も上がってきているのであれば、そのあたりももっともっと質問がある中で、

良い方向に持っていくことをお願いしたいと思います。それとグループ会社がヨーロッパと提携しまして、Ｊリーグの活性化のための運動をされているということで、アルディージャが先頭を切ってスタートしているそうですが、その辺の情報発信をもう少しうまくやった方がいいのではないか、と。Ｊリーグの活性化のためにということで。それが広がることで、チーム強化よりも、チームが強くなることで情報が広がっていって、他チーム、もしくは海外の選手の獲得もしやすいのではないかと思いますし、サッカースクールの生徒たちも、そういう上位に入るチームである誇りを持てるという風に、どんどん輪が広がり、大きくなる可能性があると思いますが、そのあたりいかがですか?

久保田 ちょっと、ご質問の確認をさせてください。グループとおっしゃっておられるのは、NTT グループのネットワークをもっと生かして、海外のクラブなりのノウハウをうまく入れるべきだ、というご意見でしょうか? かしこまりました。株主についての関係は、社長の森から説明させていただきますが、Wi-Fi を含めて、NTT グループの支援は、それに限らず多大にいただいています。当然、それに対してのお返しはしないといけませんし、それをうまく使っていくのは変わりありません。最初にお話をいただいた地域との関係とか、ファン・サポーターの皆さんは、本当に大切な存在です。それがうまく伝わっていないのであれば、そこをもっと努力して、お伝えしないといけないと思います。森から、ステークホルダーの話はあると思いますが、私のパートで言いますと、Wi-Fi を含めて、しっかりと生かして、皆さまにもお使いいただいて、それが誇りになって、いろいろなところに波及していく形になるように、さらに意識してやっていきたいと思います。よろしくお願いします。

森 質問ありがとうございました。私が社長に就任して半年が過ぎまして、今日まで「株主様」という言葉を忘れていたのですが…。何を言っているかというと、経営者として株主様を持たないで、なんで株式会社なの? というお話し、ご意見もあろうかと思いますが、株主様は、NTT グループの中で、我々の中でしっかり解決していけば良い問題だと思っています。通常の株式会社ですと、株主様の利益だとかを考えながら経営は当然だと思いますが、少なからず私が半年やってきた中で、株主となっていただいている株主様に対しては、しっかり勝つことが恩返しになるのだろうと思い、そこに焦点を置いていますので、金銭的な利益とか、そういったところで恩返しをしようとは思っていませんでした。前社長が、どういうニュアンスで「株主様」と言い、どういうふうに大切にするかは存じ上げなかったのですが、私としてはそういう気持ちで、ファン・サポーター、それから選手、監督一丸となり、勝利に向かって戦っていく活動、また経営をしていきたいと思っています。よろしいでしょうか?

司会 よろしいですか。すみませんが、お時間もあるので最後の質問にさせていただきます。ご質問がある方、挙手でお願いいたします。

質問者 9 最後の質問で、すごくバカバカしい質問で申し訳ないのですが、2017 年のサポーターズミーティング、現社長の前で申し訳ないのですが、昨年もサポーターズミーティングに出ていました。自分の空耳だったのかもしれませんし、前社長の独り言かもわかりませんが、去年はたまたま中断期間がないリーグでしたが、もし中断期間があったら、さいたまシティカップをするという話が出て、あるチームとの対戦を考えているというお話が出ました。事業本部長からサマーブレイクで、欧州のチームと何かをやっているという話を聞いたのですが、夢がある話だなと思いました。チームが勝っていくことは面白いので

すが、まったく未知数の相手と戦うのは、すごく夢のあることで、望ましいです。前社長の話のときは、チーム名はよく覚えていないのですが「ハリー・ケインと戦っているところを見たいな」と、ふと思いました。どんなビッグクラブが来るのか分かりませんが、そのときにＮＡＣＫ５スタジアム大宮で試合ができるのか。それとも、憎き相手のホームスタジアムを使ってビッグクラブを呼ぶのか。まだ何も決まっていない状態で、大風呂敷を広げてもらうのは失礼かもしれませんが、そこの宣言というか、イントロだけでも聞かせていただけたらと思います。

久保田 ご質問ありがとうございます。ＮＡＣＫ５スタジアム大宮でやることを前提に、すべて交渉しています。他でやることは考えていません。という、ちょっとシンプルな答えになります。

森 チームは今、探しています。みなさんに来ていただける形で調整していきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。

司会 はい。よろしいでしょうか。すみません。2 時間という時間があっという間に過ぎてしまいました。今のご質問をもって、2017 年の大宮アルディージャ、サポーターズミーティングを終了させていただきたいと思います。皆さま、今日は本当にお寒い中、ご来場いただきありがとうございました。今シーズンも、大宮アルディージャ、懸命に頑張りますので、ご声援のほど、何とぞよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。寒いので、気を付けてお帰りください。